

スルヲ云

第二條 修正ノ意見ヲ發スル者アリテ衆議可ト決スルトキハ議長ヨリ委任ヲ命シテ修正案ヲ作ラシム可シ

第四條 修正委員ノ外宅ノ議官ヨリ修正案ヲ進ムル者アル時ハ議長ヨリ委員ニ付シテ比照裁取シテ一案トナサシム可シ

第五條 修正案成ルトキハ之ヲ議長ニ進メ議長命シテ之ヲ印刷シ各議官ニ分付シ併セテ第二次會ヲ開クノ日ヲ報知シ又其一部ヲ内閣ニ送り内閣委員ノ檢照ニ供ス内閣委員修正案ニ叶同セサル時ハ意見書ヲ作り内閣ヲ經テ議長ニ答覆スルコトヲ得其意見書ヲ作ルニ要用ナル時間ヲ得ル爲メニハ本案會議ノ期ヲ緩クスルコトヲ求ムルコトヲ得或ハ又意見書ヲ作ラスシテ會議ニ臨ミ原案ヲ主持スルコトヲ得

第六條 第二次會ニ於テ書記官ハ先ツ逐條原案ヲ讀ミ次ニ修正案ヲ讀ミ次ニ内閣委員ノ意見書ヲ讀ミ修正委員考案ヲ陳シ内閣委員原

案ヲ主持シ而シテ後衆議官逐條修正ノ可否ヲ決ス

第七條 修正ノ議已ニ決スルトキハ修正ノ本ヲ清寫セシメ議長ヨリ「太政大臣」ヲ經テ上奏ス可シ

議案檢視條例

第一條 議案ノ檢視ニ係ルモノハ元老院ニ於テ可否スルコトヲ要セズ又修正ノ權ナシ故ニ委員ヲ用ヒス直ニ衆議員ヲ會シ全案ヲ朗讀ス可シ而シテ逐條分議スルコトヲ用ヒス

第二條 議官中議案ノ舊法ニ害シ若クハ牴觸シ及ヒ一案中互ニ相牴觸シ及ヒ不備不明ナリトシテ發言シタルトキハ議長之ヲ衆議ニ付シ發言ノ當否ヲ決シ衆議當ト決スルトキハ其理由ヲ具ヘ「太政大臣」ニ通牒シテ改正ヲ求ムルコトヲ得ベシ

第三條 議案既ニ檢視ヲ經タルトキハ議長ヨリ「太政大臣」ヲ經テ上奏ス可シ



第四條 急施ヲ要シ元老院ノ檢視ヲ經スシテ發行シタル布告ハ布告ノ同時ニ其一本ヲ内閣ヨリ本院ニ送致ス本院檢視ノ手續キハ前ニ同シ

○内閣委員元老院會議出席規則 明治九年三月八日 元老院へ達

内閣委員元老院會議出席規則別紙ノ通相定候條此旨相達候事  
(別紙)

内閣委員元老院會議出席規則

第一條 元老院ニ於テ一議案ヲ議セントスル時ハ少クモ三日以前開  
ノ前日ヨリ起算スニ之ヲ内閣ニ通知スヘシ  
但シ本條ハ初メテ其第一讀會ヲ開クトキニ限ル者トス故ニ其第二讀會以往ハ直チニ之ヲ前會ニ出席シタル委員ニ知會スヘシ  
(明治)

九年三月廿二日追加

第二條 其第一讀會ニ於テハ委員ハ書記官議案ヲ宣讀シタル後該案ノ旨趣ヲ辯明センカ爲メニ直チニ發言スルコトヲ得

第三條 其第二讀會ニ於テハ委員ハ辯明討論シテ本案ヲ主持スヘシ

第四條 其第二讀會ニ於テハ委員ハ修正案ニ對シ原案ヲ主持スルヲ勉ム可シ

連上三條ノ場合ニ於テハ委員ノ發言及討論等ハ總テ該員議事條例ニ遵フ可シ但委員ハ其決議ノ數ニ加ハラス

第五條 該員ニ於テ議事ヲ中止セサルコトヲ得サル時ハ委員ハ再議ノ期日ヲ速ニセンコトヲ求ムルヲ得

讀會規則

第一讀會

第一條 議案ヲ頒テタルヨリ少クトモ二日ノ後ニ各議官ヲ集メテ第



一讀會ヲ開ク

第二條 議長書記官ヲシテ議案ヲ朗讀セシメタルノ後内閣委員ハ直ニ本案ノ旨趣ヲ辯明シ仍ホ疑フ可キコトアレバ議官ハ更ニ内閣委員ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得

第三條 内閣委員ノ辯明已ニ畢レハ議官ハ議案ノ大意ニ付可否ノ討論ヲナス可シ修正ノ説ヲ出スコトヲ得ス

第四條 議長ハ第一讀會ノ終リニ於テ本案第二讀會ノ期日ヲ報ス可シ但第二讀會ハ第一讀會ヨリ少クモ第二日ノ後ニ在ル可シ若シ委員ヲ擇ミタル時ハ其報告書ヲ頒ケタル時ヨリ起算ス

第二讀會

第五條 第二讀會ニ於テ書記官議案ヲ朗讀シタルノ後逐條適當ノ順序ニ由テ其討論ヲナシ且其可否ヲ決ス可シ然レモ衆議ノ決定ニ由テ其條款ノ順序ヲ變換シ或ハ各條ヲ連帶シテ討論シ又ハ同一ノ條ニ付キ修正ノ各意見アルモハ之ヲ分別シテ各其可否ヲ決スルコト

ヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テ一議官修正ノ意見ヲ出シ他ノ議官之ヲ賛成スレハ議長ハ之ヲ問題トシ各議官ヲシテ討論セシメ而シテ后其可否ヲ問フ此際ニ方ツテ別段ノ建議ヲ發言スルノ外問題外ノ説ヲ發スルコトヲ得ス

第七條 第二讀會ノ終リタル後議長ハ書記官ヲシテ修正ノ諸説ノ決定セル者ヲ輯録セシメ此輯録ニ據テ原案ヲ修正セル者ハ即原案ト共ニ第三讀會ノ議案トス

第八條 議長ハ第二讀會ノ終リニ於テ本案第三讀會ノ期日ヲ報ス可シ但第二讀會ハ第二讀會ヨリ少クトモ第二日ノ後ニ在ル可シ若シ修正ニ決シタル時ハ其修正案ヲ頒ケタル時ヨリ起算シ又委員ヲ擇ミタル時ハ其報告書ヲ頒ケタル時ヨリ起算ス

第三讀會

第九條 第二讀會ニ於テ書記官議案ヲ朗讀シタルノ後議官ハ議案ノ



大意及各條毎ニ只一回ノ發言ヲナシ發言已ニ畢レハ議長ハ可否ヲ問フテ之ヲ確定ス可シ

第十條 第三讀會ニ於テ第二讀會ニ決定セル修正案廢棄セララル、トキハ仍ホ原案ニ就テ可否ノ決ヲ取ル

第十一條 第二讀會ニ於テハ修正ノ意見ヲ出スコトヲ得ス若シ已ムコトヲ得サルニ出テ修正ノ意見ヲ出ス者ハ其要旨ヲ議長ニ告ケ其意見ヲ陳述ス可シ但此意見ハ五名以上ノ賛成アルヲ要ス若シ其説用ヒラレタル時ハ更ニ其修正案ヲ頒ツニ至ルマテ確定ノ決議ヲ延ハス可シ

附則

第一條 議官或ハ内閣委員ニ於テ第一讀會ヨリ第二讀會ニ至ルマテノ期日ヲ伸縮スルコトヲ要スル時ハ衆議ニテ之ヲ決ス可シ

第二條 何レノ會ニ於テモ議官ノ動議賛成多數ノ決ニ由テ委員ヲ撰

○ 議案ノ全部或ハ一部及其它會中ノ事務ヲ附托スルコトヲ得此委員ハ其附托セラレタル事ニ付テノミ之ヲ處分シ且之ニ付テノ報告ヲナス可シ

第二條 意見書ヲ議定スルモ亦此規則ニ據ル

○ 臨時建築局 明治十九年二月  
内閣第十二號達

臨時建築局ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ諸官衙及議員等建築ノ事ヲ掌ラシム

總裁

一人

勅任

事務官

奏任

屬

判任



○警視廳

沿革略記

明治七年一月第六號達ヲ以テ警視廳ヲ置キ警視長、正權大少警視正權大中少警部ノ職員ト爲シ官等ヲ定ム  
 ○同年同月廿七日職制章程并諸規則ヲ定メ省使東京府ヘ達ス  
 ○同年二月第十五號布告ヲ以テ巡查四等ヲ置キ等級ヲ定ム  
 ○同年四月八日事務章程第三章中追加ヲ内務省ヘ達ス  
 ○同年十月第三百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ掌ル  
 ○同年同月第三百三十六號達ヲ以テ正權大中警視ノ官等ヲ改正ス  
 ○同年十二月第十二號達ヲ以テ警部補ヲ置ク  
 ○八年十二月内務省乙第六十七號達ヲ以テ東京府所轄ノ因獄并懲役場ノ事務ヲ管セシム  
 ○九年一月第一號布告ヲ以テ東京府内賣淫取締事務ヲ管ス  
 ○十年一月第十五號達ヲ以テ警視廳ヲ廢シ更ニ内務省ニ警視官ヲ置キ尋テ警保局ヲ置ク  
 ○十年一月第一號達ヲ以テ復ヒ警視廳ヲ置キ本廳巡查本部警察署消防本署監獄署ノ衙署ト爲シ本廳ニ正副總監警視五等等巡查本部ニ正副巡查總長方面監督等警察署ニ一等二等警察使等消防本署ニ正副消防司令長等監獄署ニ正副典獄等ヲ置キ官等ヲ定ム  
 ○同年同月第三號達ヲ以テ職制并事務章程ヲ定メ内局及書記第一、第二、三局并巡查本部警察署消防本

署監獄署ヲ幹理ス  
 ○十五年六月第三十七號達ヲ以テ職制中ヲ改正シ書記局ヲ廢シ會計局ヲ置ク  
 ○十八年七月第三十四號達ヲ以テ警視廳職制並事務章程ヲ改正ス  
 ○十九年一月第四號達ヲ以テ官等表ヘ追加ス  
 ○同年二月第九號達ヲ以テ職制中各局ノ課長及警察署長ノ項ヲ改正ス  
 ○同年五月勅令第四十二號ヲ以テ官制ヲ定ム

○警視廳官制

明治十九年五月  
 朕警視廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

警視廳官制

第一條 警視廳ニ左ノ警察官及屬員ヲ置ク

警視總監

警視副總監

一等警視



一等警視  
 二等警視  
 三等警視  
 四等警視  
 五等警視  
 屬  
 警部  
 警部補  
 第二條 警視廳ニ左ノ醫務官ヲ置ク  
 警察醫長  
 警察副醫長  
 警察醫  
 第三條 警視廳ニ左ノ消防官ヲ置ク  
 消防司令長  
 消防司令副長

消防司令  
 消防司令補  
 第四條 警視廳ニ左ノ監獄官及屬員ヲ置ク  
 典獄  
 副典獄  
 書記  
 看守長  
 看守副長  
 第五條 總監ハ一人勅任一等又ハ二等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及監獄ノ事務ヲ總轄ス  
 第六條 總監ハ高等警察ノ事務ニ付テハ直ニ内閣總理大臣ノ指揮ヲ承ケ其他各大臣ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ直ニ各大臣ノ指揮監督ヲ承ク  
 第七條 總監ハ府下ノ警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ



法律命令ノ範圍内ニ於テ警察令ヲ發スルコトヲ得但東京府知事所掌ノ事務ト交渉スルモノハ府知事ト協議ヲ經連署ヲ以テ之ヲ發スヘシ

第八條 總監ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第九條 總監ハ其主任ノ事務ニ付テハ府下ノ郡區長及戸長ヲ指揮ス

第十條 總監ハ内務大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ局本署部及方面ヲ廢置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ増加スルコトヲ得ス

本署ヲ除クノ外各署及局中諸課ノ廢置分合ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 總監ハ俸給豫算定額内ニ於テ其應限リ定員ヲ設ケ判任官ヲ任用スルコトヲ得

第十二條 總監ハ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外ニ俸給豫算定額

内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十三條 總監ハ每會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ依リ使用シタル雇員ノ日數人員及金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 總監ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第十五條 總監ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス  
第十六條 總監ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ局署部ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 副總監ハ一人奏任一等トス總監ノ事務ヲ佐ク總監事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第十八條 警視ハ奏任トス二等ヨリ六等ニ至ル總監ノ指揮監督ヲ承



ケ局又ハ署ニ就キ其主務ヲ掌理ス

第十九條 屬ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記及計算ヲ掌ル

第二十條 警部ハ判任トス警視ノ指揮監督ヲ承ケ所屬ノ警部補及巡查ヲ指揮シ其主任ニ屬スル警察事務ニ從事ス

警部補ハ判任トス警部ノ職掌ヲ佐ク

第二十一條 警察醫長ハ奏任三等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ警察ニ關スル醫務ヲ掌理ス

第二十二條 警察副醫長ハ奏任五等又ハ六等トス醫長ノ職掌ヲ佐ク 醫長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ之ヲ代理ス

第二十三條 警察醫ハ判任トス一等ヨリ十等ニ至ル醫長ノ命ヲ承ケ診療分析解剖等ニ從事ス

第二十四條 消防司令長ハ奏任二等又ハ四等トス總監ノ指揮監督ヲ承ケ消防本署ノ長トナリテ所屬員ヲ統率シ火水消防ノ事務ヲ掌理ス

第二十五條 消防司令副長ハ奏任五等又ハ六等トス司令長ノ職掌ヲ

佐ク司令長事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十六條 消防司令ハ判任トス司令長ノ命ヲ承ケ消防組ヲ指揮監督ス

消防司令補ハ判任トス消防司令ノ職掌ヲ佐ク

第二十七條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス總監ノ命ヲ承ケ未決已決各囚監獄ヲ管理シ書記看守長以下ノ諸員ヲ指揮監督ス

第二十八條 副典獄ハ判任トス二等ヨリ五等ニ至ル典獄ノ職掌ヲ佐ク典獄事故アルトキハ總監ノ命ヲ承ケ之ヲ代理ス

第二十九條 書記ハ判任トス六等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ承ケ書記簿記及計算ニ從事ス

第三十條 看守長ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ヲ看守シ看守ヲ指揮ス

看守副長ハ判任トス看守長ノ職掌ヲ佐ク



第三十一條 警部警部補消防司令消防司令補看守長及看守副長ノ官等及月俸ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十三條 警視廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ書記局第一局第二局第三局會計局警察本署醫務部消防本署及監獄本署ヲ置ク

第三十四條 各局ニ局長局次長一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ但局長アレハ局次長ヲ置カス局次長アレハ局長ヲ置カサルヲアルヘシ局中課ヲ設ケ各課ニ課長一人及課僚若干員ヲ置キ屬警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ

第三十五條 局長又ハ局次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ局中各課ノ事務ヲ指揮ス

課長ハ局長又ハ局次長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス課僚ハ課長ノ指揮ヲ承ケ主務ニ従事ス

局長及局次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ局長事故アルトキハ總監ノ

命ニ依リ局次長其職務ヲ代理ス

第三十六條 各本署ニ本署長本署次長一人ヲ置キ警視消防官又ハ典獄官ヲ以テ之ニ充ツ本署長アレハ本署次長ヲ置カス本署次長アレハ本署長ヲ置カサルコトアルヘシ

本署長本署次長ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス本署長及本署次長ヲ併セ置クノ場合ニ於テ本署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ本署次長其職務ヲ代理ス

第三十七條 部ニ部長副部长一人ヲ置キ醫務官ヲ以テ之ニ充ツ但部長アレハ副部长ヲ置カス副部长アレハ部長ヲ置カサルヲアルヘシ部長及副部长ハ總監ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理ス部長及副部长ヲ併セ置クノ場合ニ於テ部長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ副部长其職務ヲ代理ス

第三十八條 局署部ニ於テ特別ノ職員ヲ置クモノハ其局署部ニ就テ之ヲ定ム



第二十九條 書記局ニ職員課文書課往復課及記録課ヲ置キ本廳ノ庶務ヲ分掌セシム

一、職員課ハ本廳職員ノ進退賞罰及身分ニ關スル事ヲ掌ル

二、文書課ハ諸文案ヲ起草シ及之ヲ審査スルコトヲ掌ル

三、往復課ハ公文書類及電信ノ接受及發送ノ事ヲ掌ル

四、記録課ハ公文書類ノ編纂保存統計製圖及書籍管守ノ事ヲ掌ル

第四十條 書記局ニ參事官五人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充テ總監ノ諮問ニ應シ意見ヲ述ヘ及審議立案ノ事ヲ掌ラシム

第四十一條 第一局ニ第一課第二課第三課第四課及第五課ヲ置キ行政警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸營業市場會社製造所度量衡教會講社設教及拜禮ニ關スル事項ヲ掌ル

二、第二課ハ演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項ヲ掌ル

三、第三課ハ船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事ヲ掌ル

四、第四課ハ人命瘻傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劔水災火災難破船遺流失物埋藏物ニ關スル事ヲ掌ル

五、第五課ハ傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食物飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第四十二條 第二局ニ第一課第二課ヲ置キ司法警察ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、第一課ハ諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官ニ交付スルコトヲ掌ル

二、第二課ハ失踪者風癲者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事ヲ掌ル

第四十三條 第二局ハ政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖書及其他ノ出版ニ關シ高等警察ノ事務ヲ掌ル

第四十四條 會計局ニ出納課検査課及用度課ヲ置キ本廳及所轄廳ノ



會計營繕用度ニ關スル事務ヲ分掌セシム

一、出納課ハ本廳及所轄廳ノ經費豫算決算金錢ノ出納諸帳簿ノ整頓及計算表調整ノ事ヲ掌ル

二、検査課ハ金錢出納ノ當否及各般ノ證書ヲ検査スル事ヲ掌ル

三、用度課ハ所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事ヲ掌ル

第四十五條 警察本署ハ各警察署ヲ統轄シ巡邏查察警衛及警備ノ事ヲ掌ル

警察本署ニ事務員ヲ置ク警視二人警部以下ヲ以テ之ニ充ツ

事務員ハ本署長ノ命ニ依リ本署ノ主務ヲ分掌ス

第四十六條 府下警察事務ヲ監督スル爲ニ第一方面第二方面第三方面第四方面第五方面第六方面ニ分テ須要ニ從ヒ各方面ノ區域内ニ警察署ヲ置ク

第四十七條 各方面ニ方面監督一人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

第四十八條 方面監督ハ總監又ハ本署長ノ命ヲ承ケ主任方面内ヲ巡

廻シ警察ノ事務ヲ監督ス又臨時命ヲ承テ署長以下ヲ指揮スルコトヲ得

第四十九條 警察署ハ其所轄ノ區域内ニ於テ警察事務ヲ掌理シ各署ニ署長一人ヲ置キ事務ノ繁簡ニ從ヒ三等以下ノ警視若クハ警部ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條 署長ハ其主任ノ警察事務ニ付テハ總監又ハ本署長ノ指揮監督ヲ承ク

署長事故アルトキハ總監ノ命ニ依リ上席警部其職務ヲ代理ス

第五十一條 醫務部ハ警察ニ關スル診療解剖分析其他醫務ニ關スル事ヲ掌ル

第五十二條 消防本署ハ水火消防ニ關スル事務ヲ掌ル

各區ニ消防分署ヲ配置シ本署ノ管轄ニ屬セシム

分署ニ長一人ヲ置ク消防司令ヲ以テ之ニ充ツ

第五十三條 監獄本署ハ監獄ニ關スル事務ヲ掌リ本署ノ下分署ヲ置







改稱ス○七年五月十四日浦河支應ヲ廢ス○同年十月第百三十二號達ヲ以テ假ニ司法警察事務ヲ管ス○同年同月第百三拾九號達ヲ以テ遷卒長遷卒檢官五等及遷卒部長ヲ置キ官等ヲ定ム○八年三月第三拾七號布告ヲ以テ北海道屯田憲兵ヲ設ケ職員ヲ准陸軍大中少佐大中少尉等ト爲シ官等ヲ定ム○同年同月十三日留萌支應ヲ廢ス○同年同月十五日開拓使達ヲ以テ屯田事務局ヲ置ク○同年八月七日在東京開拓使學校ヲ札幌ニ移ス○同年同月十五日函館稅關事務ヲ大藏省ニ屬ス○同年十一月第百六拾四號布告ヲ以テ樺太嶺ヲ魯西亞國ニ屬シクリル島ヲ我國ニ屬ス○同年同月第百八拾號布告ヲ以テ魯西亞國ト交換ノケリル諸島ヲ管ス○同年十二月第百拾七號達ヲ以テ十一月二十五日職制及事務章程改定ノ旨ヲ示ス○九年二月第拾號達ヲ以テ遷卒長以下ノ官名等級ヲ改メ警部六警部補巡查等ト爲ス○十年一月第四號達ヲ以テ四等官以下等級ヲ改ム○同年同月第二拾三號達ヲ以テ正權大中少判官幹事並主典以下ヲ廢シ正權大少書記官屬官及警部十等巡查四等ヲ改メ置ク准陸軍武官故ノ如シ○同年八月第五拾六號ヲ以テ准陸軍少尉試補ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十三年十二月第六拾號達ヲ以テ職制並事務章程ヲ改定ス○十五年二月第八號布告ヲ以テ開拓使ヲ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク○十九年一月第壹號布告ヲ以テ函館札幌根室三縣並北海道事務管理局ヲ廢シ更ニ北海道應ヲ札幌ニ支應ヲ

函館根室ニ置ク○同年同月第六號達ヲ以テ北海道應官制ヲ定メ長官理事官屬ノ職員并警部長警部補ノ警察官郡區長郡區書記ノ郡區官正副典獄書記看守長ノ監獄官技長技手術官及農學校長幹事教授助教ノ學務官ト爲ス○同年十二月技ノ閣令第三拾七號ヲ以テ函館根室支應ヲ廢ス○同年同月勅令第八拾三號ヲ以テ北海道應官制ヲ改正ス○同年同月勅令第八拾四號ヲ以テ札幌農學校官制ヲ定ム

○北海道應官制明治十九年十二月  
勅令第八十三號

朕北海道應官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

北海道應官制

第一條 北海道應ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

理事官



屬  
警部  
警部補

第二條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク

郡長

區長

郡書記

區書記

第三條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク

典獄

書記

看守長

監獄醫

第四條 長官ハ一人勅任一等トス内閣總理大臣ノ指揮監督ニ屬シ各

省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ北海道ノ拓地殖民及  
警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第五條 長官ハ屯田兵開墾授産ノ事ヲ監督ス

第六條 長官ハ法律勅令閣令ノ北海道ニ施行シ難キモノアリト思量  
スルトキハ其意見ヲ具ヘ内閣總理大臣ニ上申シ其省令ニ係ルモノ  
ハ主務ノ大臣ニ上申スルコトヲ得又北海道ニ須要ナリト認ムル所  
ノ法律命令ノ案ヲ具ヘ内閣總理大臣又ハ主務ノ大臣ニ上申スルコ  
トヲ得

第七條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法  
律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ  
得

第八條 廳令ハ内閣總理大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規  
ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中  
止セラル、コトアルヘシ



第九條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺營所及屯田兵ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 長官ハ内閣總理大臣ヲ經由シテ上奏裁可ヲ經ルニアラサレハ部ヲ發置分合シ又ハ定限ノ外更ニ奏任官ヲ増加スルコトヲ得ス

第十三條 長官ハ土地ノ情況ニ依リ監獄署ヲ設置又ハ分合スルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 長官ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用ス

ルコトヲ得

第十五條 長官ハ一周年末ニ其應豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十六條 長官ハ每會計年度末ニ於テ所轄事業ノ情況及其處務ノ方法并功程ヲ具ヘ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第十七條 長官ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内閣總理大臣ノ認可ヲ經勅令第三十八號技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得

第十八條 長官ハ一郡區又ハ數郡區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管内一切ノ警察ヲ掌ラシメ又警察署ノ下其部内ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ

第十九條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第二十條 理事官ハ十人奏任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ管理ス

勅令第三十八號技術官官等俸給令ハ第二類ニ載ス



長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス

第二十一條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ從事ス

勅令第四十二號警察官制ハ本類ニ載ス參看

第二十二條 警部警部補ハ判任トス其官等俸給ハ勅令第四十二號警

視廳官制ニ依ル長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十三條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ奏任四等以下トス長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス

第二十四條 郡區書記ハ判任三等以下トシ郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ヲ分掌ス

第二十五條 典獄ハ奏任三等四等又ハ判任一等二等トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第二十六條 書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十七條 看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護

ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第二十八條 監獄醫ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第二十九條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十條 北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部長及部次長ト爲ス但部長アレハ部次長ヲ置カサルコトアルヘシ

第一部

一 職員進退文書往復ニ關スル事項

一 官印廳印ヲ管守スル事

一 記録編輯統計報告ニ關スル事項

一 學務衛生社寺ニ關スル事項

一 警察監獄ニ關スル事項



- 一 兵事戸籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項
- 一 外國人ニ關スル事項
- 一 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

- 一 農工商務ニ關スル事項
- 一 地理山林ニ關スル事項
- 一 水陸運輸ニ關スル事項
- 一 漁獵ニ關スル事項

第三部

- 一 河港堤防道路橋梁排水溝渠ニ關スル事項
- 一 鐵道工事及官衙ノ建築修繕ニ關スル事項

第四部

- 一 金錢物品ノ管理出納收支ニ關スル事項
- 一 豫算決算ニ關スル事項

勅令第五十四號地方官制ハ本類ニ載ス參看

一 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項

一 公債證書貸下金及準備米ニ關スル事項

第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ判任官ヲ以テ課長トス課長ハ命ヲ部長及部次長ニ承ク

第三十二條 勅令第五十四號地方官制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

○北海道鐵道事務所官制明治二十年三月 北海道鐵道事務所ノ官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

北海道鐵道事務所官制

第一條 北海道鐵道事務所ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ官設鐵道ノ建築及ヒ運輸ノ業務ヲ經理ス

第二條 北海道鐵道事務所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長  
技術官

第三條 所長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ指揮監督ヲ承ケ所屬

北海道廳官制



中ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技術官ハ所長ノ指揮監督ヲ承ケ工業ヲ分掌ス  
第五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務計算ニ従事ス

○

○札幌農學校官制 明治十九年十二月  
勅令第八十四號  
朕札幌農學校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

札幌農學校官制

- 第一條 札幌農學校ハ北海道廳長官ノ管理ニ屬シ農工ニ關スル學術  
技藝ヲ教授スル所トス
- 第二條 札幌農學校ノ各専門學科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ經タル者ニ卒  
業證書ヲ授與ス
- 第三條 札幌農學校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ  
校長

- 幹事
- 教授
- 助教
- 訓導
- 舍監
- 書記
- 第四條 校長ハ一人奏任トス北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ總轄シ  
幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス
- 第五條 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶  
務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第六條 教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル
- 第七條 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク
- 第八條 訓導ハ判任トス農工ノ實業ヲ授クルコトヲ掌ル
- 第九條 舍監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舍ニ關



スル事務ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○府縣

沿革略記

明治元年閏四月廿一日地方ヲ府藩縣ノ三治ニ分チ府縣ニ知府事、正權判府事ヲ置キ縣ニ治縣事、判縣事ヲ置キ藩ハ姑ク舊ニ仍ル。○同年十月廿八日藩治職制ヲ定メ執政、參政、公議人及家知事ヲ置ク。○同年十二月廿三日縣官ヲ假定シ權知縣事、權判縣事及調役、書記、筆生、捕亡ヲ置ク。○二年六月十七日藩ニ知藩事ヲ置ク。○同年七月八日府藩ニ知事、正權大少參事、縣ニ知事大少參事ヲ置キ職員令ヲ定ム。○同年同月某日府縣奉職規則ヲ定ム。○同年八月二十日官位相當ヲ更定シ縣ニ權知事及府縣ニ正權大少屬并史生ヲ置ク。○同年十二月八日府ニ正權典事ヲ置ク。○三年九月十日藩制ヲ釐革シ分テ大中小ノ三等ト爲シ以テ五萬石以上大藩五萬石以上小藩知事、正權大少參事、正權大少屬、史生、應掌使部ヲ置キ職制ヲ定ム。○同年九月十三日府縣ニ

應掌ヲ置ク。○四年正月廿二日縣ニ權大參事ヲ置ク。○同年七月十四日從前ノ諸藩ヲ廢シテ更ニ縣ヲ置ク。○同年十一月二日縣知事ヲ縣令ト改稱ス。○同年同月廿二日府縣ノ制ヲ改メ三府七拾二縣ト爲ス。是ニ於テ郡縣ノ制始テ定マル。○同年同月廿七日府縣官等ヲ更定シ府ニ正權知事、縣ニ正權令及府縣ニ正權參事、典事、大少屬等ヲ置キ開港場アル縣令ハ勅任トス。是日又縣治條例及事務章程ヲ定ム。○同年十二月三日開港場アル權知事ヲ勅任トス等級故ノ如シ。○同年同月十九日府縣奉職規則ヲ廢ス。○同年同月廿三日府掌縣掌ヲ置キ等級ヲ定ム。○五年正月第十六號ヲ以テ府縣官官等ヲ改定ス。○同年三月大藏省第三十三號ヲ以テ府縣典事或ハ屬員ノ内一人郵便御用掛ヲ兼務セシム。○同年四月大藏省第五十一號ヲ以テ府縣郵便御用掛事務心得方ヲ定ム。○同年同月第十七號ヲ以テ庄屋名主年寄ノ稱ヲ廢シ更ニ正副戶長ヲ置ク。○同年九月第二十九十一號ヲ以テ七尾縣ヲ廢シ石川新川兩縣ニ分屬ス。○同年同月第二十九十二號ヲ以テ犬上縣ヲ廢シ滋賀縣ニ併ス。○同年十一月第三百七十二號ヲ以テ額田縣ヲ廢シ愛知縣ニ併ス。○六年一月第十二號ヲ以テ足羽縣ヲ廢シ敦賀縣ニ併ス。○同年同月第十四號ヲ以テ八代縣ヲ廢シ白川縣ニ併ス。又第十五號ヲ以テ美々津都城ノ二縣ヲ廢シ宮崎縣ヲ置ク。○同年二月第五十九號ヲ以テ香川縣ヲ廢シ名東縣ニ併ス。又第六十號ヲ以テ神山石鏡ノ二縣ヲ廢シ更ニ愛媛縣ヲ置ク。○同年



六月第九十七號ヲ以テ柏崎縣ヲ廢シ新潟縣管理ト爲ス○  
 同年同月第二百十四號ヲ以テ宇都宮縣ヲ廢シ栃木縣ニ併セ  
 印旛木更津入間群馬ノ四縣ヲ廢シ更ニ千葉熊谷ノ二縣ヲ置  
 シ○同年同月第二百二十五號ヲ以テ各地方選卒又ハ取締組  
 捕亡吏等ノ名稱ヲ以テ其實番人ノ職ヲ奉シ居ル類ハ都テ番  
 人ト改稱ス○同年八月第二十八號ヲ以テ府縣ノ正權典  
 事ヲ廢シ更ニ正權大中屬ヲ置キ官等ヲ定ム小屬以下ハ舊ニ  
 依ル○同年十月第三百四十五號ヲ以テ府縣官大屬以下ノ職  
 掌ヲ改定ス○同年十二月第三百九十七號ヲ以テ縣治條例中  
 租稅出納兩課ノ職掌ヲ改定ス○七年三月第二十八號達ヲ以  
 テ區戶長ヲ以テ官吏ニ準シ假ニ其等級ヲ定ム○同年五月十  
 五日各地方警察番人等ヲ官吏トス○同年同月第六十六號達  
 ナ以テ學區取締ヲ準官吏ト爲ス○同年八月三日御陵墓ア  
 ル府縣ニ陵墓掌陵墓丁ヲ置ク○同年十月第三百三十二號達ヲ  
 以テ司法警察事務ヲ管ス○八年二月第二十五號達ヲ以テ府  
 縣五等六等ノ等外吏ヲ廢ス○同年三月第二十九號達ヲ以テ  
 行政警察規則ヲ定メ府縣ノ捕亡吏取締組番人等ヲ廢シ改テ  
 選卒ト稱ス○同年四月縣治條例中ヲ改正ス○同年五月第七  
 十六號布告ヲ以テ新治縣ヲ廢シ千葉茨城兩縣ニ分屬ス○同  
 年同月第九十一號達ヲ以テ縣治條例中ニ追加ス○同年六月  
 第九號達ヲ以テ選卒ヲ準等外トス○同年七月第二百二十二  
 號達ヲ以テ縣治條例中窮民一時救助規則ヲ廢シ更ニ窮民一

時救助規則ヲ定ム○同年九月第三百三十六號布告ヲ以テ名東  
 縣ヲ分割シテ香川縣ヲ再置ス○同年十月第五百五十八號布告  
 ナ以テ府縣ニ警部六等ヲ置キ官等ヲ定メ第八十一號達ヲ  
 以テ職制ヲ設ク尋テ第八十二號達ヲ以テ選卒ヲ改メテ巡  
 査ト稱シ等級月俸ヲ定ム○同年十一月第二十三號達ヲ以テ  
 縣治條例ヲ廢シ府縣職制並事務章程ヲ定ム○同年十二月第百  
 九十一號布告ヲ以テ小田縣ヲ廢シ岡山縣ニ併ス○九年二月  
 第十號布告ヲ以テ東京府ノ外各府縣ニ七等警部ヲ置ク○同  
 年同月第十六號達ヲ以テ府縣事務章程中ヲ改正ス○同年四  
 月第五十三號布告ヲ以テ足柄奈良度會警井新川相川北條濱  
 田小倉佐賀ノ十縣ヲ廢シ各近接諸縣ニ分屬ス○同年五月第  
 五十一號達ヲ以テ府縣事務章程中ニ追加ス○同年同月第七  
 十二號布告ヲ以テ開港場アル縣令ノ勅任官タルコトヲ廢シ  
 一般奏任官トス尋テ第八十九號布告ヲ以テ開港開市場アル  
 府ノ權知事ヲ同様トナス○同年七月第七十二號達ヲ以テ縣  
 官任期例ヲ定ム○同年八月第一百十二號布告ヲ以テ筑摩濱松  
 若松磐前鶴ヶ岡置賜敦賀鳥取飾磨豐岡三瀧宮崎香川名東ノ  
 十四縣ヲ廢シ其近接ノ府縣ニ分屬ス○十年一月第六號達ヲ  
 以テ府縣正權知事正權令等級月俸ヲ定メ參事以下ヲ廢シ大  
 少書記官屬官十等等外吏四等ヲ改置ス○同年同月第十一號  
 達ヲ以テ東京府ノ外各府縣警部以下ヲ改置シ警部十等巡查  
 四等ト爲シ等級ヲ定ム○十一年七月第十七號布告ヲ以テ郡



區町村編制法ヲ定メ每郡區ニ郡長區長ヲ置キ每町村ニ戶長  
 ナ置ク○同年同月第三十二號達ヲ以テ府縣職制並事務章程  
 ナ廢シ更ニ府縣官職制ヲ定メ府ニ知事縣ニ令府縣ニ大少書  
 記官屬十等警部十等及郡長郡書記十等ノ職員ト爲ス○同年  
 八月第三十五號達ヲ以テ縣官任期例ヲ改メ府縣官任期例ヲ  
 定ム○同年十一月第四十八號達ヲ以テ勅任ノ府知事縣令ハ  
 三等官ニ定ム○十二年四月第十四號布告ヲ以テ琉球藩ヲ廢  
 シ沖繩縣ヲ置ク○同年十二月廿六日號外達ヲ以テ府縣官任  
 期例中書記官屬官ニ係ル二項ヲ廢ス○十三年三月第六號布  
 告ヲ以テ愛媛縣ヲ割テ德島縣ヲ置ク○同年十二月第六十一  
 號達ヲ以テ府縣官職制中ニ追加ス○十四年二月第三號布告  
 ナ以テ滋賀石川兩縣ノ内ヲ割テ福井縣ヲ置キ堺縣ヲ廢シ大  
 坂府ニ併ス○同年三月第十五號達ヲ以テ府縣官中ニ典獄書  
 記看守長看守ヲ置キ官等月俸ヲ定メ尋テ第十六號達ヲ以テ  
 職制ヲ定ム○同年九月第四十二號布告ヲ以テ島根縣ヲ割テ  
 鳥取縣ヲ置ク○同年十一月第九十八號達ヲ以テ府縣官中ニ  
 警部長ヲ置キ官等月俸ヲ定メ尋テ第九十九號達ヲ以テ職制  
 ナ定ム○同年十二月第十一號達ヲ以テ警部巡查ノ等級ヲ  
 廢シ更ニ俸給ヲ定ム○十五年二月第八號布告ヲ以テ開拓使  
 ナ廢シ函館札幌根室ノ三縣ヲ置ク○十六年一月第二號達ヲ  
 以テ府縣ニ兵事課ヲ置ク○同年二月第十號達ヲ以テ府縣官  
 職制中郡長ノ項ヲ改正ス○同年五月第十五號布告ヲ以テ石

川長崎鹿兒島ノ三縣ヲ分割シテ更ニ富山佐賀宮崎ノ三縣ヲ  
 置ク○十七年二月第十六號達ヲ以テ府縣官職制中追加シ尋  
 テ第十七號達ヲ以テ府縣官任期例ヲ廢ス○同年五月第四十  
 七號達ヲ以テ府縣官中收稅長收稅屬ヲ置キ官等俸給ヲ定メ  
 尋テ第四十八號達ヲ以テ職制ヲ定ム○十八年七月第三十九  
 號達ヲ以テ府縣官職制中收稅長ノ職制ヲ更定ス○同年十二  
 月第六十五號達ヲ以テ府并開港場鎮臺控訴裁判所アル縣ノ  
 警部長ノ官等ヲ七等八等ニ區別ス○十九年七月勅令第五十  
 四號ヲ以テ地方官官制ヲ定ム○同年同月勅令第五十五號ヲ  
 以テ地方官官等俸給令ヲ定ム

○地方官官制明治十九年七月  
 勅令第五十四號

朕地方官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

地方官官制

府縣

第一條 各府縣ニ職員ヲ置ク左ノ如シ



知事  
書記官  
收稅長  
屬  
收稅屬  
典獄  
副典獄  
書記  
看守長  
看守副長

第二條 知事ハ一人勅任二等又ハ奏任一等トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政及警察ノ事務ヲ總理ス但東京府知事ハ勅任一等ニ陞ルコトヲ得

第二條 知事ハ部内ノ行政及警察事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一般又ハ其一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第四條 府縣令ハ官報其他特ニ定ムル方法ニ依リ一般ニ公布シタル後其効力アルモノトス

第五條 府縣令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止セラル、コトアルヘシ

第六條 知事ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣及主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第七條 知事ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第八條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ鎮臺若クハ營所ノ司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フ



コトヲ得

第九條 知事ハ各郡區内警察分署ノ配置分合ヲ定ム

第十條 知事ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十一條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 知事ハ一周年末ニ其廳ノ豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 知事ハ其須要ニ從ヒ俸給豫算定額内ニ於テ内務大臣ノ認可ヲ經技術官官等俸給令ニ依リ技術官ヲ置クコトヲ得但地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ經費内ニ於テスルモノハ内務大臣ノ認可ヲ經雇員トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十四條 書記官ハ二人奏任二等以下トス知事ノ命ヲ承ケ部長トナリテ其所部ノ事務ヲ整理ス知事事故アルトキハ上席書記官其職務

ヲ代理ス

第十五條 收稅長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ命ヲ承ケ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ庶務ニ從事ス

第十七條 收稅屬ハ判任トス收稅部ニ屬シ收稅長ノ指揮ヲ承ケ其主務ニ從事ス

第十八條 典獄ハ判任一等又ハ二等トス知事又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮ス

第十九條 副典獄ハ判任三等乃至五等トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第二十條 書記ハ判任六等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十一條 看守長ハ判任五等乃至七等トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ看守ヲ掌リ兼テ看守ノ勤惰ヲ視察ス

第二十二條 看守副長ハ判任八等以下トス看守長ノ職掌ヲ佐ク



第二十三條 看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十四條 府縣廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲ニ第一部第二部ヲ置キ部中便宜課ヲ設ケ書記官ヲシテ各一部ノ長タラシム

第一部

- 一、府縣會水利土功會區町村會ノ會議ニ關スル事項
- 二、地方稅區町村費備荒儲蓄ニ關スル事項
- 三、外國人ニ關スル事項
- 四、文書往復ニ關スル事項及官印府縣印ヲ管守スル事
- 五、農工商務ニ關スル事項
- 六、他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

- 一、土木ニ關スル事項
- 二、兵事ニ關スル事項
- 三、學務ニ關スル事項

四、監獄ニ關スル事項

五、衛生ニ關スル事項

六、會計及公債證書ニ關スル事項

第二十五條 前條ノ外府縣廳中ニ收稅部ヲ置キ租稅ノ賦課徵收及徵稅費ニ關スル一切ノ事務ヲ分掌セシム部中課ヲ設クルハ第二十四條ノ例ニ依ル

第二十六條 前條ニ指定スル外臨時ノ事務ハ知事ニ於テ便宜其主掌ヲ定ムルコトヲ得

警察官

第二十七條 各府縣ニ左ノ警察官ヲ置ク

警部長

警部

警部補

第二十八條 警部長ハ一人奏任四等以下トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ



左ノ職務ヲ掌ル

- 一、管内高等警察ノ事
  - 二、管内ノ警察ニ關スル一切ノ事務及警察ノ會計ニ關スル事務ヲ整理スル事
  - 三、管内各部ノ警察官ヲ指揮監督シ非常急變ノ場合ニ於テ管内ノ警察官ヲ統一指揮スル事
  - 四、管内各警察署及各警察分署ニ必要ノ警察官ヲ分配スル事
- 第二十九條 警部ハ判任一等乃至七等警部補ハ判任八等以下トス警部長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第二十條 各府縣ニ警察本部ヲ置キ前第二十四條ニ指定スルノ外府縣廳中ノ一部トシ警部長ヲシテ其長リ充テ部中課ヲ設ケ前第二十八條ノ事務ヲ掌理セシム
- 第三十一條 府縣内各郡區ニ警察署一箇所ヲ置キ警察署ノ下其部内

- ニ於テ警察分署ヲ配置シ警察署ハ警部ヲ以テ其長ニ充テ警察分署ハ便宜警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充テ部内ノ高等警察行政警察及司法警察ヲ掌リ法律命令ノ履行ヲ監督ス其項内左ノ如シ
- 一、諸營業市場會社製造所度量衡教會講社說教及拜禮ニ關スル事項
  - 二、演藝遊觀場遊戯場遊憩場徽章祭典葬儀賭博富籤其他風俗ニ關スル事項
  - 三、船舶堤防河岸地道路橋梁渡船場鐵道電信公園車馬諸建築田野漁獵採藻ニ關スル事項
  - 四、人命傷傷群集喧噪銃砲火藥爆發物發火物刀劍水災火災難破船遺流失物理藏物ニ關スル事項
  - 五、傳染病豫防消毒檢疫種痘飲食飲料水醫療藥品家畜屠畜場墓地火葬場其他衛生ニ關スル事項
  - 六、諸般ノ犯罪人ヲ搜索拿捕シ證據物件ヲ拾集シ之ヲ檢察官



ニ交付スル等ニ關スル事項

七、失踪者瘋顛者棄兒迷兒被監視者ニ關スル事項

八、政治ニ關スル結社集會新聞雜誌圖畫及其他ノ出版ニ關スル事項

第三十二條 各警察官ハ其職權ニ依リ又ハ上官ノ命ニ依リ若クハ部長收稅長郡區長戸長及其他行政官ノ請求ニ應シ又司法警察ニ關シテハ檢察官ノ命ヲ承ケ其職務ヲ執行スヘシ

第三十三條 警察官ハ總テノ場合ニ於テ行政官又ハ司法官ノ自ラ其責任ニ當リテ警察官ニ請求ヲ爲ストキハ警察官ハ其請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第三十四條 他府縣ヨリ警察ノ事務ニ關スル照會ハ必ス知事ヲ經ヘシ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ警部長又ハ其事ノ執行ヲ要スル地ノ警察官ニ宛直ニ照會スルコトヲ得

第三十五條 巡查ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

勅令第四十二號警視廳官制ハ本類ニ載ス

第二十六條 東京府下ノ警察及監獄ニ關スル事務ハ勅令第四十二號警視廳官制ニ依リ本令中ノ條項ニ指定スル限ニアラス

郡區

第二十七條 每郡若クハ數郡ニ郡長一人每區ニ區長一人及書記若干人ヲ置ク

第二十八條 郡區長ハ奏任四等以下書記ハ判任三等以下トス

第二十九條 郡區長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理ス

第四十條 郡區長ハ法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ分任スル條件ハ便宜施行シテ後知事ニ報告スルヲ得

第四十一條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内町村ノ戸長ヲ指揮シ其公同事務ニ就テハ之ヲ監督ス

第四十二條 郡區長ハ郡區書記ノ任免ヲ知事ニ具申ス

第四十三條 郡區長ハ法律命令若クハ知事ヨリ委任ラレタル事件ニ



付部内一般ニ告示スルコトヲ得

第四十四條 郡區長ハ部内ノ行政處分ニ關シ警察官ニ請求シテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四十五條 郡區書記ハ郡區長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス

島地

第四十六條 長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラレヘキ府縣ニ特ニ島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項ハ便宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四十七條 島司ハ奏任三等以下トス

○稟請ヲ要セス處分ノ後報告スヘキ條件十九年三月一號  
自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム  
一恤救規則心得第八條一家數人救助ノ事  
一國縣道道幅取擴ノ事  
一社寺由緒アル地所建物處分ノ事

- 一社寺創立再興等建設延期ノ事
- 一地租改正以前ヨリ人民ノ埋葬シ來リタル官有墓地ヲ民有墓地ニ組替ル事
- 一耕宅地ニ非サル民有地ヲ贅牛馬捨場ニ撰定シ及之ヲ廢スル事
- 一廢合神社跡地ヲ明治八年乙第百十三號達ニ準シ處分スル事
- 一民設ノ用惡水路堤塘溜池井溝ヲ官有地ニ組換並ニ明治九年乙第八十一號達同十六年乙第四十五號達ニ依リ代地ヲ下ケ渡スル事
- 一官有市街地ヲ明治十三年太政官第六號達ニ依リ公立小學校公立中學校公立專門學校敷地ニ附與スル事
- 一人民ノ願ニ依リ土地建物ノ寄附ヲ許可シ其土地ヲ官有ニ組替ル事
- 一官有ノ湖沼池等埋立ノ事
- 一但工事ノ一町歩以上ニ涉ルモノハ此限ニアラス
- 一素地相當代價ノ既定セル開墾地ヲ拂下ル事
- 一但河川ノ寄洲川沿ニ係ル地所ハ此限ニアラス
- 一土石砂利ヲ掘取及拂下ル事
- 一但修路治水ニ害アルヘキモノハ此限ニアラス
- 一地方税ノ經濟ニ於テ土地建物ヲ買上及拂下ル事
- 一阿片賣買特許藥舖鑑札下付ノ事
- 一阿片製造鑑札下付ノ事
- 一劇藥配伍ノ賣藥許否ノ事



- 一 避病院開設ノ事
- 一 檢疫委員設置ノ事
- 一 養魚其他殖産ノ爲メ官有池沼ヲ貸渡ス事
- 一 社寺境内一時貸下ノ事
- 一 府縣官舎ノ内官宅警察署郡區役所等建築ノ事

○民政部 附民政部官

沿革略記 明治元年二月五日内國事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム○同年閏四月二十一日内國事務局ヲ廢ス○同年十一月六日治河使ヲ設ク○二年四月八日民政部官ヲ置キ府縣事務ヲ總判セシメ戶籍驛遞橋道水利開墾物産濟貧養老等ノ事ヲ管督セシム○同年五月三日開墾局ヲ置キ民政部官ニ屬ス○同年六月四日民政部官職制ヲ定メ聽訟庶務驛遞土木物産ノ五司ヲ管シ本官ニ正副知官事正權判官事書記等ヲ置キ司ニ知司事正權判司事ヲ置ク○同年七月八日民政部官ヲ廢シ民政部省ヲ置キ地理土木驛遞ノ三司ヲ管シ本省ニ卿大少輔正權大少丞大少錄等司ニ正權正正權佑等ヲ置キ職制ヲ定ム○同年同月廿七日治河使ヲ廢シ事務ヲ土

水司ノ管理ニ屬ス是日民政部規則ヲ定ム○同年八月十一日大藏省中租稅監督通商鑛山ノ四司ヲ民政部省ノ管理ニ屬ス○同年同月十二日民政部大藏兩省ヲ合併ス○同年同月二十日官位相當ヲ更定ス○三年七月十日民政部大藏兩省ヲ分テ民政部省ニ土木驛遞鑛山通商聽訟ノ五司及社寺鐵道電信機燈明臺橫須賀製鐵所ノ諸掛ヲ管セシム○同年同月二十一日民政部省中地理庶務兩司ヲ置キ通商司ヲ大藏省ニ屬ス○同年閏十月二十日鑛山司并諸掛ヲ廢シ聽訟掛ヲ庶務司中ニ設ク是日寺院寮ヲ置ク○四年正月二十日大藏省所轄ノ牧畜事務ヲ民政部省ニ屬ス○同年七月二十七日民政部省ヲ廢ス

○教部省 附神祇省

沿革略記 明治元年二月五日神祇事務局ヲ置キ督正權輔正權判事等ノ職員ヲ設ケ職制ヲ定ム○同年閏四月二十一日神祇事務局ヲ廢シ更ニ神祇官ヲ置キ職員ヲ正副知官事正權判官事等ト爲ス○三年四月某日教導局ヲ建ツ○同年七月八日官制ヲ改定シ神祇官ヲ改置シ職員ヲ伯大少副大少祐大少



史等ト爲シ宣教使ヲ置ク尋テ翌月二十日官位相當ヲ更定ス  
 ○同年同月九日教導局ヲ廢ス○同年九月十七日神祇官中諸  
 陵寮ヲ置ク○同年同月廿九日宣教使官員ヲ長官、次官、正權判  
 官、正權大中少宣教使、正權大少主典、大中少講議生等ト爲ス○  
 同年十月九日宣教使ヲ神祇官ニ屬ス○三年四月五日宣教使  
 中正權大中少宣教使ヲ改テ正權大中少博士トス○四年八月  
 四日神祇官中大少祜權官并大史以下ヲ廢シ更ニ大中少ノ掌  
 典神部ヲ置ク是日諸陵寮ヲ廢ス○同年同月八日神祇官ヲ改  
 テ神祇省トス○同年九月廿九日省中御巫ヲ置ク○同年十月  
 十七日御巫ヲ改テ正權內掌典ト爲ス○五年三月第八十二號  
 ナ以テ神祇省ヲ廢シ教部省ヲ置ク○同年同月第九十二號ヲ  
 以テ祭事祀典事務ヲ式部寮ニ屬ス○同年四月第三百三十二號  
 ナ以テ教導職ヲ置キ教部省ノ管轄トス○同年同月第四百三十  
 六號ヲ以テ音樂歌舞ノ類ヲ管セシム○同年同月第四百四十號  
 ナ以テ神官ヲ管セシム○同年六月教部省第四號ヲ以テ教導  
 職管長ヲ置カシム○同年八月神官ヲ教導職ニ補ス○同年九  
 月七日教部省號外達ヲ以テ教導職幹事ヲ置カシム尋テ名目  
 ナ管事ト改ム○六年二月教部省第六號ヲ以テ管事ヲ廢ス○  
 九年一月第一號達ヲ以テ教部省職制章程ヲ改定ス○十年一  
 月第四號布告ヲ以テ教部省ヲ廢シ事務ヲ內務省ニ付ス

○兵部省

沿革略記

明治元年二月五日軍防事務局ヲ置キ職員ヲ督、正權輔  
 正權判事等ト爲シ職制ヲ定ム○同年四月三日裁判所  
 ナ置ク○同年閏四月二十一日軍防事務局ヲ廢シ軍務官ヲ置  
 キ職制ヲ定メ陸軍、海軍ノ二局築造、兵船兵器、馬政、四司ヲ管  
 シ本官ニ正副知官事、正權判官事局ニ將三等司ニ知司事、正權  
 判司事ト爲ス○同年九月二十五日裁判所ヲ廢ス○同年十一  
 月二日海軍局ヲ東京ニ置ク○同年同月十七日醫學所ヲ東京  
 府ノ管理ニ屬ス○同年同月二十日病院ヲ京都府ノ管理ニ屬  
 ス○同年十二月四日復々病院ヲ管ス尋テ軍務官治療所ト改  
 稱ス○二年正月八日東京市街取締ノ藩兵ヲ管掌ス○同年三  
 月二十四日外國人護衛ノ別手組ヲ管ス○同年五月二十七日  
 大和國十津川郷ヲ管ス○同年七月某日軍務官治療所ヲ廢ス  
 ○同年七月八日軍務官ヲ廢シ兵部省ヲ置キ職制官等ヲ定メ  
 兵學寮及武庫會計、糾問ノ三司ヲ管シ本省ニ卿、大少輔、正權大  
 少丞、大少錄等寮ニ正權頭、正權助、正權允等司ニ正權正、正權佑  
 等ノ職員ト爲ス是日又海陸軍ヲ設ク○同年八月二十日兵部  
 省官位相當ヲ改正ス○同年十一月二日大阪城ヲ管ス○同年



十二月廿日京都ニ出張所ヲ置ク○三年正月十日京城衛戍ノ諸藩兵隊ヲ管ス○同年二月二日造兵司ヲ置ク○同年同月十九日陸軍所及ヒ軍事病院ヲ大阪ニ置ク○同年同月二十日京都警衛ノ藩兵ヲ支應ニ隸ス○同年同月二十七日十津川郷ノ管轄ヲ罷ム○同年七月二十四日外國人護衛別手組ヲ東京府ノ管轄ニ屬ス○同年八月七日兵學寮ニ大少教授、大中少助教、得業生、准得業生ヲ置ク○同年九月十八日大中少佐、大中少尉ヲ海陸軍ニ正權曹長ヲ陸軍ニ置キ官位相當ヲ定ム○同年閏十月某日兵學寮中准得業生ヲ廢ス○同年十一月四日海軍練所ヲ海軍兵學寮ト改メ大阪兵學寮ヲ陸軍兵學寮ト改ム○四年正月十七日京都出張所ヲ廢ス○同年二月八日禁門ノ警衛ヲ管ス○同年同月十三日御親兵ヲ置キ本省ニ隸ス○同年四月廿三日東山西海兩道ニ鎮臺ヲ置キ本省ニ屬ス○同年七月某日會計司ヲ廢ス○同年同月五日軍醫寮ヲ置ク○同年八月十日官制ヲ釐定シ兵學、軍醫ノ二寮及武庫、糾問、造兵ノ三司ヲ管シ本省ニ屬シ大少輔、大少丞、正權大中少錄寮ニ正權頭、正權助、正權大中少屬及醫正、軍醫、同副各二等軍醫試補并大少教授、助教、得業生司ニ正權大中少令史ノ職員ト爲ス○同年同月十八日各地ノ城郭ヲ管ス○同年同月某日官制ヲ改革シテ兵部省ヲ陸軍海軍ノ二部ニ分テ兩部ニ秘書、軍務、會計ノ三局陸軍部ニ砲兵、築造ノ二局海軍部ニ造船、水路ノ二局ヲ置キ又陸軍海軍ニ各兵學寮ヲ建テ軍醫寮、糾問、造兵、武庫ノ三司海陸軍

ニ造船、水路ノ二司及水兵部、提督府、保全港司ヲ海軍ニ參謀局三兵本部ヲ陸軍ニ設テ東京大阪東北鎮西ノ四管鎮臺ト爲ス○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省官等ヲ改正ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省陸軍省ヲ置ク

○工部省

沿革略記

明治三年閏十月二十日工部省ヲ置キ鑛山製鐵燈明臺鐵道傳信機等ノ事ヲ管シ其職制ヲ定ム○三年十二月十九日鑛山司ヲ廢シ鑛山掛ヲ置ク○四年四月九日長崎製鐵所ヲ管ス是日橫須賀長崎兩製鐵所ヲ造船所ト改稱シ橫濱製鐵所ヲ製作所ト改稱ス○同年七月廿七日土木司ヲ置ク○同年八月十四日工學、勸工、鑛山、鐵道一並ニ土木、燈臺、造船、電信、製鐵、製作二並ニ十寮及測量司等ヲ置ク○同年同月二十四日文書會計ノ二局ヲ置ク○同年九月三十日土木寮所轄橋梁ノ事務ヲ大藏省營繕寮ニ屬ス○同年十月八日土木寮ヲ大藏省ニ屬ス○同年十二月十七日各科工術等級ヲ定メ職員ヲ都檢、大中少長、上中少師、大中少手、見習ト爲ス○五年正月十三日工學校ヲ設ク○同年十月八日橫須賀造船所橫濱製作所ヲ海軍省ニ屬ス



○同年十月第三十三號ヲ以テ造船製鐵ノ二寮ヲ廢シ製作寮ニ併シ長崎造船所ヲ長崎製作所ト改稱ス○六年十一月第三百九十號ヲ以テ勸工寮ヲ廢シ製作寮ニ併ス○七年一月九日測量司ヲ廢シ事務ヲ內務省ニ屬ス○同年同月二十二日內務省土木寮營繕事務ヲ本省ニ管ス○八年六月第一百十二號ヲ以テ營繕局ヲ置ク○同年十一月第七十七號布告ヲ以テ工學寮ヲ改メテ二等寮ト爲ス○同年同月第七十九號布告ヲ以テ營繕寮ヲ置キ二等寮ト爲ス○同年十二月第二百十七號達ヲ以テ職制章程ヲ改定シ鑛山鐵道並ニ燈臺電信製作營繕工學並ニノ七寮ヲ管シ職員ヲ卿大少輔正權大少丞正權大中少錄等ト爲ス○九年十二月第四百十四號達ヲ以テ各科工術技長ノ等級ヲ改定ス上師以下ハ舊ニ依ル○十年一月第三號達ヲ以テ諸寮及ヒ正權大少丞並錄以下ヲ廢シ書記官屬官ヲ置ク○同年同月第四號達ヲ以テ四等官以下ノ等級ヲ改メ官等ヲ十七等ニ分ツ○同年二月第二十三號達ヲ以テ工術一等技長以下ヲ廢シ更ニ正權大少技長技手十等ヲ置キ等級ヲ定ム○十二年三月第十六號達ヲ以テ各科工術等級ヲ改メ更ニ技監ヲ置ク○十三年十二月第六十號達ヲ以テ職制及事務章程ヲ改定シ鑛山鐵道燈臺電信工作營繕會計檢査金庫書記ノ十局ヲ管ス○十四年八月第六十三號達ヲ以テ檢査局ヲ廢ス○同年十一月第九十四號達ヲ以テ從前ノ事務章程ヲ廢シ諸省事務章程通則ヲ定ム○十五年一月第七號達ヲ以テ各科工術等

級并月給ヲ改正ス○同年四月第十八號達ヲ以テ各科工術等級并月俸表中ニ追加ス○同年八月第五十一號達ヲ以テ工部大學校職制及職員等級俸給ヲ定ム○十七年一月第十四號達ヲ以テ諸省事務掌程通則第十條ヲ改正ス○同年五月第四十二號達ヲ以テ各科工術等級并月給表ヲ更正ス○同年十月第八十七號達ヲ以テ工部大學校職員中助教授ニ委任ヲ置キ年俸ヲ定ム○十八年十二月第七十號達ヲ以テ工部省ヲ廢シ鑛山工作ノ事務ハ農商務省ニ電信燈臺ノ事務ハ遞信省ニ工部大學校ハ文部省ニ屬シ鑛道事務ハ姑ク內閣ノ直轄ト爲ス

○左院 附集議院

沿革略記

明治元年九月十九日議事取調局ヲ置ク○同年十一月十九日議事廳裁取調所ヲ置キ諸藩公議人ヲ管ス○同年十二月六日公議所ヲ東京ニ置ク○二年三月十二日待詔局ヲ東京ニ置ク○同年四月十七日議事取調局ヲ廢ス○同年七月八日待詔局ヲ廢シ待詔院ヲ置キ公議所ヲ廢シ集議院ヲ置



キ兩院ヲ上下二局ニ分テ集議院職制ヲ定メ長官次官正權判官大少主典等ノ職員ト爲ス○二年八月十日集議院中幹事ヲ置ク○同年同月十五日待詔院下局ノ事務ヲ集議院ニ合ス○同年同月廿日集議院官位相當ヲ改定シ同院規則ヲ定ム尋テ翌月某日新定規則ヲ達ス○四年七月廿九日左院ヲ置キ議長議員ノ職員ヲ設ケ官制等級ヲ定ム○同年八月十日左院官制ヲ改定シ正副議長大中少議官ヲ設ク○同年同月十八日制度局ヲ左院ニ合ス○同年同月廿日集議院ヲ左院ノ管轄ト爲ス○同年十月四日左院中大中少議官ヲ改定ス○同年同月第十二號ヲ以テ左院中正權大中少掌記ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十月第三百二號ヲ以テ左院官等ヲ改定シ正副議長議員五等議官三等書記官三等書記生五等及筆生三等ノ職員ト爲ス○六年六月第二廿八號ヲ以テ集議院ヲ廢シ事務ヲ左院ニ屬ス○同年同月第二廿九號ヲ以テ左院中議生ヲ廢ス○七年二月十二日正院中法制財務兩課ヲ廢シ事務ヲ左院ニ附ス是日假ニ職制章程ヲ定ム○八年四月第五十九號布告ヲ以テ左院ヲ廢ス

○第二類 官等、俸給、旅費

○官等俸給令

沿革略記

明治元年三月假ニ月給規則ヲ定メ上中下等ノ階級ヲ立テ總裁職以下給額ヲ定ム○同年閏四月官等ヲ定メ九等トシ三等官以上ヲ勅任五等官以上ヲ奏任六等官以下ヲ判任トシ一等官以下官等ヲ定ム○同年五月國事多端ニ因テ暫ク諸官月給ヲ半減ス○同年六月月給規則ヲ改正シ且關東平定迄三等以上半額五等以上三分一ヲ減給ス○同年十一月行政官ニ錄事ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十二月月給渡方定則ヲ定ム○同年同月東北平定ニ付月俸ノ減給セシ分ヲ支給ス○二年七月官制ヲ更定シ位階十八階ト爲シ神祇伯左右大臣以下官位ヲ定ム○同年八月前令ヲ改正シ官位二十階ヲ立テ從四位以上ヲ勅任從六位以上ヲ奏任從九位以上ヲ判任ト爲シ左右大臣參議卿以下官位ヲ定ム○同年同月月給ノ制ヲ改メ官祿定則及其渡方手續並ニ官祿規則ヲ定ム○同年十月官位ノ階級ニ因リテ官祿ヲ支給ス○四年二月等外吏ヲ四等ニ分テ俸祿ヲ定ム○同年八月官位相當ノ制ヲ廢シ官等ヲ定テ十五等ト爲シ三等以上ヲ勅任七等以上ヲ奏任八等以下ヲ判任トシ大臣參議以下官等ヲ定ム○同年九月官祿ヲ改正シ月



給定則ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ官制ヲ更定シ大臣  
 參議卿以下官等ヲ改ム○五年三月第七十八號ヲ以テ數官兼  
 任ノ者ハ其高キ官ニ依リ月俸ヲ給ス○同年七月第二百十三  
 號ヲ以テ前令ヲ改メ月給ハ給額多キ方ニ依リ支給ス○六年  
 二月第七十五號ヲ以テ任免等全月未滿端日數ノ者月給支給  
 方ヲ定ム○同年十二月第四百十九號ヲ以テ前令ヲ廢シ十五  
 日前後ノ區分ヲ以テ月給ヲ支給ス○七年五月第六十一號達  
 ヲ以テ月俸規則ヲ定ム○同年六月各應用掛雇出仕ハ其月給  
 ノ等差ニ依リ奏判任等外ニ區分ス○十年一月第四號達ヲ以  
 テ四等官以下ノ官等ヲ改正シ判任官以上ヲ十七等トシ俸給  
 ヲ定ム○同年同月第拾號達ヲ以テ太政官中四等官以下官等  
 ヲ改ルコト前令ニ同シ○十二年十二月第五十三號達ヲ以テ  
 文官四等以下八等以上ノ月俸ヲ改正ス○十九年三月勅令第  
 六號ヲ以テ高等官官等俸給令ヲ定メ尋テ同年四月勅令第三  
 十六號ヲ以テ判任官官等俸給令ヲ定ム

○高等官官等俸給令 明治十九年三月  
 勅令第六號

朕茲ニ高等官官等俸給令ヲ裁可ス  
 高等官官等俸給令

官等及叙任

- 第一條 高等官ヲ分テ勅任官奏任官トス
- 第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽  
 ナルシ内閣總理大臣又ハ首坐ノ大臣之ニ副署ス
- 第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外勅任官ヲ分テ二等トス其  
 辭令書ハ御璽ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス
- 第四條 奏任官ヲ分テ六等トス其任官ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其  
 各省ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス
- 第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス
- 第六條 各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル
- 第七條 勅任官又ハ奏任官ノ官等内ニ於テ特ニ官等ヲ限ルコトヲ要  
 スルモノハ各別ニ之ヲ定ム



第八條 内閣及各省中ノ局長ハ奏任官一等又ハ二等トシ局長ハ現任局長ノ次等以下トス

第九條 同一ノ官名ニシテ等差アルモノハ每等人員ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ其每等ノ定員變更ヲ要スルトキモ亦同シ俸給

第十條 勅任奏任文官ノ年俸ハ別表ニ依ル

第十一條 陸海軍武官ノ年俸ハ從前定ムル所ニ依ル

第十二條 議官交際官領事貿易事務官判事檢事理事地方官教官技術官ノ類其特ニ定ムル俸給ハ前條ノ外トス

第十三條 奏任官ノ年俸ハ各廳俸給定額内及其官等年俸ノ等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ各大臣便宜之ヲ増減スルコトヲ得

陞叙及特例

第十四條 官等ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十五條 每等人員ヲ定ムルノ官ハ五年ヲ踰ユルモ闕員アルニアラ

サレハ陞叙スルコトヲ得ス

第十六條 局長ノ闕員ニ依リ局長ヲ以テ其闕ヲ補フコトヲ要スルトキハ第十四條ノ例ニ依ラス

第十七條 各大臣秘書官ノ進退ハ第十四條第十五條ノ例外トス

第十八條 勅任官ハ本令ノ外勅旨ヲ以テ特ニ其年俸ヲ増給スルコトアルヘシ

第十九條 奏任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケタル者勞績拔群顯著ナルハ内閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ勅任官二等ノ下級俸ヲ給スルコトアルヘシ

第二十條 奏任官他ノ官廳ニ涉ルノ兼官ハ兼ヌル所ノ俸給三分ノ一以内ヲ増給スルコトヲ得

同官廳ニ於ケル兼官ハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

第二十一條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ



第二十二條 本令中俸給ニ關スル細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

(別表)

勅任官		奏任官				
内閣総理大臣	一等	二等	三等	四等	五等	六等
九千六百圓	上 五千圓	上 四千圓	上 三千圓	中 二千八百圓	中 二千四百圓	中 二千圓
各省大臣	下 四千五百圓	下 四千圓	下 三千五百圓	下 三千圓	下 二千六百圓	下 二千二百圓
六千圓	下 四千圓	下 三千五百圓	下 三千圓	下 二千六百圓	下 二千二百圓	下 一千八百圓

○高等官俸給支給細則 十九年四月十二號  
 高等官俸給支給細則左ノ通相定ム  
 高等官俸給支給細則  
 第一條 高等官ノ年俸ハ之ヲ四分シ二月五月八月十一月ノ四期ニ於テ之ヲ支給スルモノトス  
 第二條 俸給ノ支給ハ新任轉任増俸減俸共總テ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 廢官退官及ヒ死亡ノ時ハ當月分ノ俸給ヲ支給シ日割ヲ以テ計算セス  
 第四條 非職廢官退官ノ者事務引繼殘務取調ノ爲メ特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸ヲ給與ス  
 第五條 願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病)ニ由リ上應セサルモノ三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス  
 第六條 病氣(轉地療)ニ由リ上應セサルモノ九十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノハ此限ニアラス  
 第七條 優恩ニ由リ賜暇休養及ヒ暑中休暇ハ第五條及ヒ第六條ノ限ニアラス  
 第八條 兼官ノ増俸ハ其兼任廳經費ノ内ヨリ支給スルモノトス  
 第九條 各廳俸給ノ支給ハ左ノ日割ニ依ルモノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス  
 第四日 (内務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省)  
 第五日 (内務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省)  
 第六日 (内務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省 內務省 陸軍省 海軍省 文部省 司法省 農商務省)  
 第十條 轉任ノ場合ニ於テハ發令ノ日マテ前任應ヨリ其俸ヲ支給スルモノトス  
 第十一條 轉任ノ時前任應ニ於テ俸給ノ過渡アルトキハ新任應ヨリ直チニ之ヲ前任應ニ返付ス



第十二條 降等減俸賜暇旅行病氣其他ノ事故ニ由リ俸給ヲ追徴スヘキモノアルトキハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス  
第十三條 非職ノ時其追徴スヘキ金額ハ大藏省ヨリ彙キニ支給シタル官廳ニ返付シ大藏省ハ次期ノ俸給ヨリ差引計算スルモノトス

第十四條 會計ヲ異ニスル應ヨリ官吏ヲ借用スルトキハ其間ノ俸給ハ日割ヲ以テ借用應ヨリ該官吏所屬ノ廳ニ返付ス

第十五條 第五條ノ場合ト第六條ノ場合ト相續テ起ルトキ其第五條ニ始マリ第六條ニ終レハ其間通算シ九十日ノ後俸給ヲ減シ第六條ニ始マリ第五條ニ終レハ其間ヲ通算シ三十日ノ後俸給ヲ減ス

第十六條 日割計算ノ法ハ年俸十二分ノ一ヲ以テ一箇月分トシ其月ノ現日數ニ割合計算スルモノトス

○高等官俸給支給細則附則 明治十九年四月大藏省令第十五號  
高等官俸給支給細則附則左ノ通相定ム

一新官制ニ依リ本年四月一日以前ニ任官ノモノハ總テ四月一日ヨリ起算シテ年俸ヲ支給ス同日以後任官ノモノハ其當日マテ其月ノ現日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ其翌日ヨリハ新官ノ俸給ヲ支給スルコト本則第二條ニ據ル但シ前官ナキモノハ總テ任官ノ翌日ヨリ起算シテ年俸ヲ給スルモノトス

一他所在勤又ハ出張ノ官吏ニシテ非職ヲ命セラレタルモノハ年

俸ハ命令到達ノ日マテ在職俸ヲ支給ス

一他所在勤又ハ出張中廢官退官ノ時其命令到達ノ日マテハ尙ホ從前ノ俸ヲ給ス

一忌引ニ由リ上應スル能ハサル場合ニ於テハ本則第五條及第六條ノ日數ニ算入セス

一優恩ニ由リ賜暇休養暑中休暇及忌引等ノ場合ト本則第五條第六條ノ場合ト連續スルトキハ其賜暇休養休暇又ハ忌引ノ日數ヲ除キ前後ノ日數ヲ計算シテ減俸スルモノトス

○判任官官等俸給令 明治十九年四月勅令第三十六號

朕茲ニ判任官官等俸給令ヲ裁可ス

判任官官等俸給令

第一條 判任官ヲ分テ十等トシ一等ヨリ十等ニ至ル

第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依ル

第三條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ從前定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第四條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ



踰ユルニアラサレハ昇等スルコトヲ得ス

第五條 每等ニ定員ヲ限リ缺員アルニアラサレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス

第六條 判任官一等ニシテ上級俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘタル者勞績拔群顯著ナルモノハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ハラズ漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ

第七條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス其非職者ニ於テモ亦同シ

第八條 本令中俸給細則ハ大藏大臣其省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
(別表)

判任官

一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
上七拾五圓	五拾圓	四拾五圓	四拾圓	三拾五圓	三拾圓	貳拾五圓	貳拾圓	拾五圓	拾貳圓
下六拾圓									

○判任官俸給支給細則 大藏省令第二十號  
判任官俸給支給細則左ノ通相定ム

第一條 判任官ノ月俸ハ毎月左ノ日割ニ依リ支給スルモノトス  
但休日ニ當ルトキハ順次繰上トス  
二十六日(内閣) 二十七日(陸軍省) 二十八日(海軍省) 二十九日(文部省) 三十日(司法省) 三十一日(農商務省) 元日(農商務省) 元日(農商務省) 元日(農商務省)

第二條 増俸減俸非職減俸共ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ其當月分ハ日割ヲ以テ計算スルモノトス

第三條 新任ノトキハ職務ニ就キタル當日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第四條 轉任ノトキハ前任應ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ新官ノ俸給ヲ支給スルモノトス

第五條 公務ニ由リ旅行スルモノニハ第一條ノ日割ニ拘ラズ翌月マテノ俸給ヲ給與スルコトヲ得

第六條 右ニ掲ル者ノ外ハ總テ高等官年俸支給法ノ例ニ據ル  
附則  
一新官制ニ依リ本年五月一日以前ニ任官ノモノハ總テ五月一日ヨリ起算シテ俸給ヲ支給シ同日以後任官ノモノハ其月ノ日數ニ依リ日割ヲ以テ舊官俸給ノ額ヲ支給シ新官ノ俸給ハ



其翌日ヨリ起算スルモノトス  
○ 備員俸給定分十九年九月大藏省訓令第四十三號  
備員俸給支給方ノ議ハ判任官ト權衡ヲ失ハサル様適宜之ヲ定メ  
當省へ届出へシ

○ 司法省備員俸給支給規則十九年九月司法省令第二十二號  
備員俸給支給規則左ノ通相定ム

備員俸給支給規則

- 第一條 雇員俸給ハ毎月廿七日支給スルモノトス
- 第二條 新任ノ時ハ職務ニ就キタル當日ヨリ支給スルモノトス
- 第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ増減支給スルモノトス
- 第四條 轉任ノ時ハ前應ノ事務ヲ終リタル翌日ヨリ後應ニ於テ支給スルモノトス
- 第五條 公務ニ因リ旅行スルモノハ第一條ノ定日旅行日積日數内ニ在ル時ハ該月分ノ俸給ヲ繰上ケ支給スルヲ得
- 第六條 日給ハ大祭日祝日日曜日ノ休暇ハ之レヲ支給シ病氣引忌引其他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス

○ 賞勳局官等年俸

明治十九年三月 勅令第十號

沿革略記

明治十九年十月第九十六號達ヲ以テ正院中賞勳事務局ヲ置キ正副長主事一等二等秘書官一級二級三級秘書官等ヲ定ム  
○ 同年十二月第九十九號達ヲ以テ賞勳事務局

局ヲ賞勳局ト改稱ス  
○ 同年一月第十號達ヲ以テ一級秘書以下ヲ廢ス  
○ 十一年三月第八號達ヲ以テ正副長ヲ廢シ正副總裁ヲ置ク  
○ 十八年十二月内閣第八十二號達ヲ以テ主事及一二等秘書官ヲ廢シ秘書官並屬ヲ置ク  
○ 十九年三月勅令第十號ヲ以テ内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ定ム

朕内閣賞勳局職員及官等年俸ヲ裁可ス

内閣賞勳局職員及官等年俸

第一條 賞勳局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 總裁 一人
- 勅任 一等 一人
- 副總裁 一人
- 勅任 二等 二人
- 書記官 二人
- 奏任自一等至四等 屬
- 判任



第二條 總裁副總裁及書記官ノ年俸ハ左ノ如ク定ム

總裁

四千圓

副總裁

三千圓

書記官

奏任一等	上貳千四百圓
	下貳千貳百圓
奏任二等	上貳千圓
	下千八百圓
奏任三等	上千六百圓
	下千四百圓
奏任四等	上千貳百圓
	下千圓

○宮内省勅委任官官等年俸 明治十九年二月 號外達

沿革略記

明治二年七月宮内省及皇太后宮職皇后宮職東宮坊ヲ建  
 各職員ヲ置キ官位相當ヲ定ム○同年八月官位相當ヲ  
 改定ス○三年十一月内舍人御廩兩局ヲ置キ職員ヲ定メ及次

侍從ヲ置キ各官位相當ヲ定ム○同年同月内舍人御廩兩局へ權  
 助ヲ置キ官位ヲ定ム○四年七月侍從長及大少監ヲ置キ官位  
 ヲ定ム○同年八月官位相當ノ制ヲ廢シ更ニ官等十五等ヲ立  
 テ卿以下ノ等級ヲ定ム皇太后宮職皇后宮職春宮坊留守官ハ  
 姑ク舊ニ仍ル○同年九月各官等ノ月俸ヲ定ム○同年同月次  
 侍從ヲ廢シ侍從長侍從ノ官等ヲ改正ス○同年同月侍從番長  
 官等ヲ定ム○六年八月第二百七十八號ヲ以テ皇族家令ノ官  
 等ヲ定ム○八年一月第五號布告ヲ以テ典醫侍醫以下ヲ廢シ  
 更ニ侍講侍醫以下官等ヲ定ム○十年九月第六十三號達ヲ以  
 テ大少丞侍從長侍從番長藥劑官等ヲ廢シ書記官屬侍補侍從  
 醫員等ノ官等ヲ定ム○同年九月第六十四號達ヲ以テ式部寮  
 ナ宮内省へ屬セラレ同寮中判任官以下ヲ廢シ更ニ大掌典以  
 下ヲ置キ官等ヲ定ム○同年十月第七十二號達ヲ以テ侍醫ノ  
 官等ヲ改正ス○同年十二月第百號達ヲ以テ式部寮掌典神部  
 ナ廢シ更ニ一等掌典以下ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十一年六  
 月第二十四號達ヲ以テ皇后宮大夫亮ノ官等月俸ヲ定ム○同  
 年十二月第五十四號達ヲ以テ侍補ヲ廢シ更ニ侍補侍從長ヲ  
 置キ侍從長ノ官等ヲ定ム○十二年十月第四十號達ヲ以テ侍  
 補ヲ廢ス○十三年二月第十三號達ヲ以テ皇太后宮皇后宮大  
 夫亮年俸ヲ改正ス○十五年十一月第六十一號達ヲ以テ侍從  
 官等ヲ改正ス○十七年三月第二十五號達ヲ以テ侍從長等ヲ  
 廢シ更ニ侍從職ヲ置キ侍從長以下官等ヲ定ム○同年四月第



三十三號達ヲ以テ内藏寮ヲ置キ内藏頭以下官等ヲ定ム○同年八月第七十二號達ヲ以テ圖書寮ヲ置キ頭以下官等ヲ定ム○同年十月第八十號達ヲ以テ式部寮ヲ廢シ更ニ式部職ヲ置キ長官以下官等月俸ヲ定ム○同年十一月第十一號達ヲ以テ華族局長官主事以下官等ヲ定ム○同年十二月第六十八號達ヲ以テ侍從試補官等ヲ定ム○十八年十二月第六十三號達ヲ以テ宮中顧問官等ヲ定ム○十八年十二月第七十三號達ヲ以テ御料局長官以下并ニ内匠寮頭以下官等ヲ定ム○十九年二月宮内省號外達ヲ以テ勅任奏任官ノ官等年俸ヲ改正ス

宮内省勅任奏任官員ノ官等及年俸ヲ改定スルコト左ノ如シ

第一條 内大臣宮内大臣ノ年俸ハ六千圓トス

第二條 侍從長以下ノ官等及年俸ハ左ノ表ニ依ル

勅任一等	五千五百圓
侍從長	四千圓
宮中顧問官	上五千圓 下四千五百圓
宮内次官	上四千圓 下三千五百圓
式部長官	上四千圓 下三千五百圓

皇太后宮大夫	上四千圓 下三千五百圓
皇后宮大夫	上四千圓 下三千五百圓
勅任二等	三千五百圓
宮中顧問官	上四千圓 下三千五百圓
宮内次官	上三千圓 下二千七百圓
式部次官	上二千四百圓 下二千圓
掌典長	上三千圓 下二千五百圓
大膳大夫	上四千圓 下三千五百圓
内藏頭	上三千圓 下二千五百圓
主殿頭	上三千圓 下二千五百圓
圖書頭	上三千圓 下二千五百圓
内匠頭	上三千圓 下二千五百圓
主馬頭	上三千圓 下二千五百圓
御料局長官	上三千圓 下二千五百圓



主殿權頭	圖書權頭	內匠權頭	主馬權頭	諸陵頭	御料局主事	侍醫	調度局長	華族局主事	奏任二等	書記官	秘書官	侍從	式部官
上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

侍醫局長官	侍醫	華族局長官	親王家別當	奏任一等	書記官	秘書官	侍從	式部官	掌典	皇太后宮亮	皇后宮亮	大膳亮	內藏權頭
上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓







書記官	上 千圓 中 千圓 下 千圓
秘書官	上 千圓 中 千圓 下 千圓
侍從	上 千圓 中 千圓 下 千圓
式部官	上 千圓 中 千圓 下 千圓
掌典	上 千圓 中 千圓 下 千圓
匠師	上 千圓 中 千圓 下 千圓
諸陵權助	上 千圓 中 千圓 下 千圓
御料局主事補	上 千圓 中 千圓 下 千圓
侍醫	上 千圓 中 千圓 下 千圓
華族局主事補	上 千圓 中 千圓 下 千圓
家令	上 千圓 中 千圓 下 千圓
奏任五等	上 千圓 中 千圓 下 千圓
侍從試補	上 千圓 中 千圓 下 千圓
式部官	上 千圓 中 千圓 下 千圓

俸給ハ別ニ之ヲ定ム

掌典	五百四十圓
雅樂師長	四百二十圓
匠師	俸給ハ別ニ之ヲ定ム
家令	八百圓
奏任六等	五百五十圓
侍從試補	五百五十圓
內監	上 四百圓 中 三百圓 下 二百五十圓
式部官	五百四十圓
掌典	四百八十圓
雅樂師副長	三百六十圓
匠師	俸給ハ別ニ之ヲ定ム
家令	七百圓

○皇宮警察長及次長官等年俸 明治十九年五月 宮內省達第五號節錄

皇宮警察長及次長官等年俸 華族女學校官等俸給



主殿寮中門監門監補門部消防監消防監補消防嚮導消防手ヲ廢シ  
同寮中更ニ皇宮警察署ヲ置キ官制ヲ定ムル左ノ如シ

皇宮警察長 皇宮警察次長官等俸給

- 皇宮警察長 奏任二等 上貳千圓 中千八百圓 下千六百圓
- 皇宮警察次長 奏任三等 上貳千五百圓 中千四百圓 下千三百圓
- 皇宮警察次長 奏任四等 上貳千二百圓 中千二百圓 下千圓
- 皇宮警察次長 奏任五等 上九百圓 中八百圓 下七百圓

全文ハ第一類官制ノ部ニ載ス參看

○華族女學校官等俸給 明治十九年二月 宮内省達第二號節錄

華族女學校職員及官等俸給ヲ改定スルコト左ノ如シ

第八條 女學校職員等級及俸給ハ左ノ表ニ依ル

長 勅任 年俸	三千四百圓	二千五百圓																		
學監 奏任 同	千八百圓	千五百圓	千二百圓																	
幹事 奏任 同	七百圓	六百圓	四百圓																	
教授 奏任 同	千八百圓	千五百圓	千二百圓																	
助教 判任 同	四百圓	三百圓	二百圓																	
書記 判任 同	二百圓	一百五十圓	一百圓																	
書記 判任 月俸	二十四圓	十五圓	十二圓																	

○交際官並領事費用條例 明治十九年七月 勅令第四十九號

沿革略記 明治三年閏十月二日大中小辨務使大少書記ヲ置キ官位ヲ定ム○四年十月廿日特命全權大使へ達ヲ以テ書記官ノ等級ヲラシム○同年十一月五日總理事正副理事代理事務ヲ置キ官等ヲ定ム○五年十月第三百八號ヲ以テ大中小辨務使大少書記以下ヲ廢シ特命全權公使以下并一二三等書記官ヲ置キ官等ヲ定ム○同年同月第三百二十六號ヲ以テ一等書記生以下八等ヲ置キ官等ヲ定ム○六年二月第六十六號ヲ以テ代領事ヲ廢ス○同年五月第八十五號ヲ以テ公使領事以下給料等洋銀ヲ以テ支給ノ處本年六月一日ヨリ新貨ヲ以テ支給ス○九年八月外務省へ達ヲ以テ公使領事費用條例ヲ設ケ公使以下ノ月俸及三等書記官三等書記以下ヲ廢シ更ニ公使領事書記官以下年俸ヲ定ム○十年九月第十六號達ヲ以テ領事官官等ヲ改定ス○十二年十二月第四十六號達ヲ以テ三等書記官三等書記生ヲ置キ官等ヲ定メ書記一二等見習生ヲ廢シ更ニ書記官書記生ヲ置ク○同年十一月第九十七號

交際官並領事費用條例



達ヲ以テ領事ノ官等ヲ改正ス○十五年三月第十五號達ヲ以テ特命全權公使ノ官等ヲ改正シテ一二等官ト爲メ○十九年七月勅令第四十九號ヲ以テ交際官並領事費用條例ヲ改正ス朕交際官並領事費用條例ノ改正ヲ裁可ス

交際官並領事費用條例

第一條 海外在勤ノ公使領事以下官員ノ年俸ハ第一號表ニ照シテ之ヲ支給ス但任所着翌日ヨリ起算シ任所出發ノ前日マテ日割ヲ以テ支給ス

第二條 公使領事參事官書記官赴任前許可ヲ得テ妻ヲ攜帶スル者及赴任後許可ヲ得テ任所へ妻ヲ呼寄スル者ハ總テ其妻任所着翌日ヨリ起算シ任所出發歸朝ノ前日マテ日割ヲ以テ妻攜帶ノ俸給ヲ支給ス  
第三條 出發前ノ俸給ハ新拜命ノ官員出發前滯京ノ日數ヲ六十日ト定メ第二號表ニ照シ通貨ヲ以テ支給ス妻攜帶ノ許可ヲ得タル公使領事參事官書記官ニハ其給額ノ二割増ヲ支給ス

第四條 前條ノ期限内ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ出發前ノ俸

給ヲ六十日ニ分割シ前任所後任所ニ從ヒ支給ス又出發ノ延期ヲ命セラレタル者ハ六十日以後ハ第四號表公用滯京ノ項ニ照シテ支給シ病氣ニテ出發ノ延期ヲ願出タル者ハ同表養病歸朝ノ項ニ照シテ支給ス

第五條 出發前三十日以内ニ於テ免官セラレタル者及赴任ヲ免セラレタル者ハ出發前俸給ノ半額ヲ返納セシムヘシ又免官免任ノ期三十日以後ニ方レハ其給額ヲ六十日ニ割リ之ヲ返納セシムヘシ其願ニ依リ赴任ヲ免セラレタル者ハ悉皆返納セシムヘシ

第六條 往返旅中俸給ハ本邦任所往返旅中上陸賄料馬車代公用郵便稅電信料接待費等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第七條 往返旅中俸給ハ現日數ニ拘ハラヌ又赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ地方へ巡回スルニ拘ハラヌ第三號表本任所ノ項ニ就テ支給ス  
第八條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者ニモ亦前條ノ俸給ヲ支給ス



ト雖モ任所ニ於テ免官ノ者ニハ之ヲ支給セス

第九條 任所往返ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡回シ或ハ航行中非常ノ事故アリテ郵船ヲ待合セ又ハ某港ニ滞留スル者之カ爲メ第三號表中限日數ヨリ延着スルトキハ外務大臣定ムル所ノ費額ヲ支給ス

第十條 甲地在勤ノ者乙地ヘ任所替ヲ命セラレタルトキハ旅中俸給トシテ甲地出發ノ日ヨリ乙地着任ノ日マテヲ算ン本邦任所往返旅中俸給ノ額ヲ日割トシ現日數ニ乘シテ支給ス

第十一條 公使領事交代スルトキ公使ハ解任狀捧呈謁見濟ノ日ヲ以テ事務ヲ引繼キ領事ハ新任領事到着ノ日ヨリ一週間内ニ之ヲ引繼キ共ニ其當日ヨリ二週間内ニ其任所ヲ發程スヘシ

第十二條 公使領事歸朝ヲ命セラレ又ハ歸朝ノ許可ヲ得或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ二週間内ニ事務ヲ其代理者ニ引繼キ任所ヲ發程スヘシ

第十三條 參事官書記官交際官試補書記生ノ交代并歸朝任所替發程期日ハ第十二條第十二條ノ例ニ同シ

第十四條 發程ノ延期ヲ命セラレタル者ノ外公館ノ公務ニ依リ發程ノ延期ヲ要スル者ハ外務大臣ノ許可ヲ得テ仍ホ一週間延期スルコトヲ得ヘシト雖モ此延期中ハ公使領事ハ年俸二分ノ一參事官以下ハ年俸三分ノ二日割ヲ以テ支給ス

病氣其他事故ニ依リ出發ヲ延期セシ公使領事ニハ年俸二分ノ一參事官以下ニハ年俸二分ノ一日割ヲ以テ支給ス

第十五條 任所ヲ轉スル者ニハ事務引繼濟ニ拘ハラヌ新任ノ年俸ヲ支給ス

第十六條 公使領事公用ニテ在留國內外ニ旅行スルトキ其代理ヲ任スルコトアルモ事務ノ引繼ヲ爲スニ及ハス故ニ代理者ニ代理年俸ヲ支給セスシテ公館費用ハ公使領事ノ擔任トス

第十七條 公使領事任所不在中其代理者ニハ本任官出發ノ日ヨリ起



算シ本官ノ年俸ヲ支給セス代理年俸ヲ支給ス本任官歸任スルカ或  
ハ新任公使領事到着スルトキハ事務引繼ノ日數ニ拘ハラヌ着翌日  
ヨリ代理者ニ代理年俸ヲ支給セス

第十八條 交代濟歸朝ノ後無任所外交官ヲ命セラレサル者ニハ着京  
翌日ヨリ百八十日ヲ限り第四號表交代濟歸朝日當ノ項ニ照シテ日  
給ヲ支給ス此期滿レハ官吏非職條例ニ依リ非職ヲ命ス但非職俸ハ  
交代濟歸朝日當ノ三分ノ二ヲ以テ算出スヘシ

第十九條 在勤滿三箇年以上ニ彌リ外務大臣ノ許可ヲ得往復順路ノ  
日數ヲ除キ六箇月間賜暇歸朝ノ者ニハ着京翌日ヨリ第四號表賜暇  
歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

休暇日ヲ過キ病氣其他ノ事故ニ依リ歸任ヲ延期スル者ニハ同表  
養病滯京ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十條 公用ニテ歸朝ヲ命セラレタル者及航海不便ノ港ニシテ每  
歲冬季例ニ從ヒ閉館シ隨テ歸朝スル者ノ日給支給法亦前條ニ同シ

官吏非職條例ハ第五類ニ  
載ス

第二十一條 歸省養病等ノ許可ヲ得テ歸朝スル者ニハ着京翌日ヨリ

第四號表養病歸朝ノ項ニ照シテ日給ヲ支給ス

第二十二條 臨時代理公使ニハ代理公使ノ年俸ヲ支給ス

第二十三條 貿易事務官其他特設ノ官名ヲ以テ領事ノ職務ヲ行ハシ  
ムル場合ニ於テハ其官等ニ應シ領事ノ例ニ照シテ年俸其他ノ支給  
ヲ爲スヘシ

第二十四條 公使領事以下死亡シタルトキハ第四號表一時賜金年俸  
三分ノ一ヲ給與ス海外ニ於テ死亡シタル者ニハ別ニ在勤年俸一箇  
月分ヲ支給ス

赴任前死亡シタルトキハ出發前ノ俸給ヲ返納セシムルニ及ハス

第二十五條 移轉費、交際費、事務所費、公館雇員費、妻井從者旅費、航  
行費、陸路費、在留國內外公用旅行雜費、公館借入、公館備付品科目買  
上代價并修理費、事務引繼前後經費負擔ノ區分、公館經費、公館非常  
準備金其他計算等 關スル細則ハ外務大藏兩大臣ノ定ムル所ニ依ル

交際官并領事費用條例























同四等	同五等	同六等	判任	同	同	同	同	同	同	同	同	同
領事官	副領事	副領事	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生	書記生
上級	中級	下級	年一級	年二級	年三級	年四級	年五級	年六級	年七級	年八級	年九級	年十級
三圓〇拾	貳圓四拾	貳圓四拾	貳圓四拾七錢	壹圓六拾四錢	壹圓四拾八錢	壹圓三拾貳錢	壹圓拾五錢	九拾九錢	八拾貳錢	六拾六錢	五拾錢	三拾三錢
貳圓四拾	貳圓四拾	貳圓四拾	壹圓八拾五錢	壹圓貳拾三錢	壹圓拾壹錢	九拾九錢	八拾六錢	七拾四錢	六拾貳錢	五拾錢	四拾壹錢	三拾三錢
貳圓四拾	貳圓四拾	貳圓四拾	壹圓貳拾四錢	八拾貳錢	七拾四錢	六拾六錢	五拾八錢	四拾六錢	三拾四錢	二拾貳錢	一拾壹錢	貳拾五錢
貳圓四拾	貳圓四拾	貳圓四拾	八拾	六拾	五拾	四拾	三拾	二拾	一拾	零	零	零
千圓	千圓	千圓	九百	六百	五百	四百	三百	二百	一百	零	零	零

四百七十八

同	同
書記生	書記生
年十級	年九級
三拾九錢	四拾九錢
貳拾九錢	三拾七錢
貳拾錢	貳拾五錢
拾八錢	貳拾錢
百四拾四圓	百八拾圓

○交際官并領事費用條例細則十九年七月一號  
 交際官并領事費用條例細則ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 第一章 在勤年俸  
 第一條 條例第一條ニ載スル在勤年俸日割支給ノ計算ハ其年ノ現日數ヲ以テ除シ割リ得タル額ヲ日數ニ乘シ支給スヘシ  
 公使領事以下官員海外ニ於テ新任轉任増俸減俸ノ節其俸給ハ現ニ本人其辭令ヲ受ケシ翌日ヨリ起算支給スヘシ(二十年本項追加)  
 第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴シ難キトキハ其事情ヲ具シ其妻ノ出發延期ヲ外務省ニ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在

交際官并領事費用條例  
 四百七十九



スルトキハ妻携帶費ヲ支給スルコトアルヘシ

第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲセ命ラレタル者ニ限リ支給シ歸朝中他所ニ在勤替ヲ命セラル、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セス尤歸朝滯京中奏任ヨリ勅任ニ轉シ再ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノ、例ニ依リ出發前ノ俸給ヲ支給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中許可ヲ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ユルトキハ外國ニ在テハ乙號表旅行雜費内國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外移轉諸費トシテ丙號表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラス交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓又領事館書記生ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナキ者ハ手當トシテ同三百圓月割(十五日前後)ヲ以テ支給ス其他公館ノ費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ

シ尤モ公使領事不在中ト雖モ公館ノ費用ヲ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアテス

第八條 副領事ニテ總領事又ハ領事管轄内ノ一地ニ常住シテ事務ヲ擔任スルトキハ事務取扱所借料其他一切ノ公費トシテ一箇年五百圓以上貳千五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後)支給シ精算ニ及ハス

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用ヲ要スルトキハ五百圓以上千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアルヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國ニ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ兼任地若翌日ヨリ同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨壹磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通辯等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一館ニ一人ヲ限リ許可シ其給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省ニ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキトキハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具ニ外務省ニ申出ヘシ勿論假雇間ノ給料公使館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同貳百圓以内ナルヘシ

第十二條 公館雇員ノ内不時缺員アルトキハ外公館使用ノ爲メ我國人ヲ雇入ル、コトヲ許サス但雇間ノ給料ハ歐米各國ニ在



ハ一箇月英貨貳拾磅以內亞細亞地方ハ銀貨五拾圓以內タル

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ携帶スル者ニハ任所往復及ヒ在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限り妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ一等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替ノトキニ限り其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限り航行費及陸路費ヲ支給スヘシ

但御川歸朝及賜暇歸朝ノ節ハ其都度之レヲ支給スヘシ

第十六條 公館附屬書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻並從者ノ旅費ハ支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路費

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運搬費解人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第十八條 航行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡廻スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セズ

第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡廻スル者

ニハ迂廻ノ距離ニ準シ航行費并陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養測歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セズ

第二十一條 歸省願濟日數滿テ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滞在ヲ命セラレ出發ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス

第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費支拂ノ精算ニ依テ支給スヘシ但私屬荷物運賃勅任ハ七十貫目奏任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所ニ往復スル者ハ航行費ヲ給セズ官船乗組賄料トシテ勅任ハ一日壹圓五拾錢奏任ハ同壹圓貳拾錢判任ハ同九拾錢ヲ支給ス但官仕賄ノ節ハ之レヲ給セズ

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中賄料接待費馬車解人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸着ノ日迄航行費ヲ除クテ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ其日數ニ應シテ之レヲ支給スヘシ但往復一日ノ者ニハ之レヲ給セズ

第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費



ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル證明書ヲ添フヘシ  
第二十七條 旅行雜費ハ出張先二週間(若シ翌日ヨリ起算ス)ヲ限リ全額ヲ支給シ二週間後ハ半額ヲ支給ス兼任國滞在ハ五週間(同上)ヲ限リ全額ヲ支給シ其後ハ半額ヲ支給ス但國書體呈等ノ爲メ兼任國政府ノ都合ニ依リ此期ヲ經過スルトキハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキニ限リ期日後ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地若發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲廳ノ官員ヲシテ乙廳ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其體給ハ甲廳ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙廳ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セス但乙廳留勤中其廳ノ公用ニテ旅行スルトキハ其應ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ

第三十條 在哥爾薩港領事館管內漁場巡廻雇日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且賄道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費ナルヘシ

第十章 公使領事以下恩給並一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給並一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例第四號表恩費并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依リ

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシトキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ支給ス

第十一章 公館借入及移轉

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ル所ノ豫算額ヲ超ユヘカラス若シ此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ビタル家屋ニシテ借料定額ヲ超ユタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支給スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通ト爲シ其副書ヲ外務省ニ差出スヘシ

第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若シ什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辨トス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一月ニ限リ官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使領事ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手数料謝金其他新館ノ窓掛ケ敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辨スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ移轉スヘカラス此許可ヲ得シテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辨トス

第三十八條 公館移轉ノ際荷物運搬ノ費用ハ總テ官費ヲ以テ支辨スヘシ

第十二章 公館備付品科目買上代價額並修理











スヘシ  
第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事務引繼濟ノ當日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ  
第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓朝鮮國ハ通貨四千圓領事館ハ總テ同三千圓朝鮮國迄ハ非常已ムヲ得サルトキニ限リ公使領事ニ於テ大藏省預ケ金ノ内或ハ預ケ金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ル、コトヲ得ヘシ右ハ公館屬員等ノ定員ニ缺員アルトキハ一時雇員費及漂流民窮民貸與費患者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ銷還ノ手續ヲ爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金スヘキ銀行ナキトキハ本文ノ金額ヲ豫メ送致シ置ヘシ

第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館ニ送達シ右送金ニ對スル明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レヲ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領收證書ヲ發シ其旨外務省ニ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日(假令ハ一月)

二月ヨリ三月迄ノ分ハ其ノニ渡方取計ヒ經費金ハ第十三章ノ科ニ照ラシ支出シ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ事ノ大小ヲ不論總テ外務省ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ニ繰替支出スルヲ許サス萬一非常ノ場合ニ際シ一時繰替ヲ爲サルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外務省ニ報告シ償還ノ手續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形ニ倣ヒ調製シ翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對シテハ正當請取證書寫或ハ事故アリテ請取證書ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官ノ證明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領收證書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ屬スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フヲ得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラズ甲月分ノ勘定帳ニ記載スヘシ但借家料及保險料ノ類前拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニアラス



第五十七條 各館於テハ每一月其出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙雛形ニ據リ調製シ毎月精算書ト共ニ外務省へ差出スヘシ

第十八章 收入金及返納金  
第五十八條 旅券其他諸手數料及ヒ不用品拂下代金等總テ收入金ハ一箇月分取總メ兼テ外務省ヨリ回付シアル明細仕譯書用紙ニ書載セ外務省及各主管廳へ報告シ現金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

第五十九條 公使領事以下官員歸朝スルカ或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ兼テ回付シタル本人年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無遲滯外務省へ報告スヘシ尤殘餘アルトキハ預リ證書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但任所替ノ者ハ便宜之レヲ新任所へ轉送スルモ妨ケナシ

第六十條 年度末ニ至リ經費金等殘餘ヲ生スルトキハ預リ證書ヲ以テ其年度末期勘定帳差出ノ節共ニ返納スヘシ

第十九章 雜  
第六十一條 官金ハ其公館へ堅牢ナル器物ヲ備へ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行へ預ケ置ク等便宜ニ任スト雖モ銀行へ預ケ入ルハトキハ其銀行名等豫テ外務省へ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケヲ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ伺出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費へ任用スルヲ許サス

第六十三條 公使領事館へ各省廳ヨリ依頼スル注文品代價ハ其

依頼應ノ通知額ヲ用途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼應ニ向テ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲ爲シ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘカラス

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若クハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以テ在勤スル者ハ費用條例ニ據ラス左ノ通支給ス  
一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ム  
一 本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス

一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス  
一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ二十貫目迄ヲ限リ官費支給スヘシ  
一 航海中ノ日當ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日當ノ外賄料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ  
一 内地滯在中ハ日當金三拾五錢ヲ支給シ前欸ノ航海日當ハ支給セス

一 外國諸港ニ滯在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料朝鮮國ハ一日七拾錢ヲ支給スヘシ  
第六十五條 在勤中公用ニテ旅行ノ節ハ旅行雜費トシテ一日金壹圓三拾錢ヲ日數ニ應シ支給スヘシ  
第六十六條 妻呼寄願ハ本人ノ願書ニ限ル留守宅或ハ親戚等ヨリ願出ルモ之レヲ許サス尤本人ヨリノ依頼狀等其情願ヲ證スル丈ケノモノアルトキハ此限ニアラス











同至澳國トリエスト	同	五拾九圓	同	四拾三圓
同至伊國羅馬府	同	六拾六圓	同	四拾九圓
同至伊國ミラン	同	四拾圓	同	三拾圓
同至伊國ウニエス	同	五拾貳圓	同	三拾九圓
同至伊國プリンシマーシ	同	七拾六圓	同	五拾四圓
同至伊國フロレンス	同	五拾三圓	同	三拾八圓
同至伊國ナブル	同	七拾七圓	同	五拾五圓
同至伊國チユリン	同	三拾三圓	同	貳拾五圓
同至伊國セーヌア	同	五拾貳圓	同	三拾九圓
同至瑞西國ベルヌス府	同	貳拾三圓	同	拾七圓
同至瑞西國チユーリヒ	同	貳拾四圓	同	拾八圓
同至瑞西國ゼチーウ	同	貳拾六圓	同	拾九圓
同至瑞典ストツクホルム	同	七拾圓	同	五拾四圓
同至丁抹コペンハーゲン	同	四拾五圓	同	三拾七圓
同至白耳義ブリュセル府	同	拾三圓	同	拾圓
同至白耳義ナスタンド	同	拾四圓	同	拾壹圓

同至西班牙マドリト府	同	五拾八圓	同	四拾四圓
同至葡國リスボンヌ府	同	八拾八圓	同	六拾六圓
同至那威クリスタアーニヤ	同	七拾八圓	同	五拾五圓
同至獨國伯林府	同	四拾圓	同	三拾四圓
同至獨國ハーデン	同	貳拾三圓	同	拾七圓
同至獨國コロニユ	同	拾九圓	同	拾四圓
同至獨國フランクホルト	同	貳拾七圓	同	貳拾圓
同至獨國ドレスド	同	四拾四圓	同	三拾三圓
同至獨國ハンブルク	同	三拾七圓	同	貳拾七圓
同至獨國ムニツク	同	三拾七圓	同	貳拾七圓
同至獨國ストラスフルク	同	貳拾圓	同	拾五圓
同至獨國ライプナツク	同	三拾九圓	同	貳拾九圓
同至洪高利ブーダペスト	同	七拾貳圓	同	五拾五圓
同至土耳其コンスタンティブル	同	百四拾五圓	同	百五圓
同至露國モスコウ	同	百拾貳圓	同	八拾圓
同至露國ナデツサ	同	百〇八圓	同	八拾壹圓



同至露國彼得堡府	同	九	拾	四	圓	同	七	拾	四	圓
從露國彼得堡府至同國モスコウ	同	拾	九	圓	同	拾	三	拾	三	圓
同至同國リウヂヤ	同	六	拾	七	圓	同	三	拾	九	圓
同至同國チレンブルク	同	六	拾	四	圓	同	四	拾	六	圓
同同至同國ウラツカフカズ	同	七	拾	六	圓	同	五	拾	六	圓
同至同國チヂツサ	同	五	拾	六	圓	同	四	拾	五	圓
同至同國アボイ港	同	貳	拾	壹	圓	同	拾	四		圓
同至同國ヘルシングフォルス	同	拾			圓	同	七			圓
同至同國レーウエル	同	拾	壹		圓	同	八			圓
同至同國シラスノエセロ	同	八	拾	錢	同	六	拾			錢
同至同國ツアルスコエセロ	同	八	拾	錢	同	六	拾			錢
同至同國ペテルホフ	同	八	拾	錢	同	六	拾			錢
同至同國クロンスタット	同	壹	圓	三	拾	錢	同	壹		圓
同至同國シラコウイ	同	四	拾	貳	圓	同	三	拾	貳	圓
同至獨國エードクンチン	同	貳	拾	六	圓	同	貳	拾		圓
從獨國エードクンチン至同國伯林府	同	貳	拾	八	圓	同	貳	拾		圓

從獨國キール至同國ハンブルク	同	四			圓	同	三			圓
從獨國ハンブルク至同國伯林府	同	拾			圓	同	七			圓
從獨國伯林府至同國維也納府	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八		圓
同至白耳義ブリュッセル	同	三	拾	五	圓	同	貳	拾	六	圓
同至英國倫敦府	同	五	拾	八	圓	同	五	拾		圓
同至和蘭アムステルダム	同	貳	拾	六	圓	同	貳	拾		圓
從和蘭アムステルダム至同國海牙	同	壹	圓	貳	拾	錢	同	七	拾	錢
從伊國ナール至同國羅馬府	同	九			圓	同	六			圓
從伊國羅馬府至同國ウエニス	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八		圓
同至同國ミラン	同	貳	拾	六	圓	同	拾	九		圓
從伊國ウエニス至同國ミラン	同	拾	貳		圓	同	九			圓
同至同國維也納府	同	拾	九		圓	同	拾	四		圓
從澳國トリエネスト至伊國ウエニス	同	九			圓	同	七			圓
同至同國維也納府	同	拾	九		圓	同	拾	四		圓
從澳國シラコウイ至同國維也納府	同	拾	三		圓	同	拾	四		圓
從瑞典ストツホルム至同國マルモ	同	貳	拾		圓	同	拾	五		圓

交際官并領事費用條例



從丁抹コペンハーゲン至同國コルセル	同	四	圓	同	三	圓
從英國サウサンプトン至同國倫敦府	同	七	圓	同	五	圓
從英國倫敦府至同國リウルプール	同	拾	五	圓	同	拾
從米國桑港至同國華盛頓府	同	貳百三拾五圓五拾錢	同	百五拾七圓五拾錢	同	拾
從清國天津至同國北京府	同	四	拾	圓	同	三
但此表面ニ掲出セサル旅行ハ英壹里ニ付銀貨七錢チ一等トシ同五錢チ二等トシ支給ス 亞細亞其他鐵道ナキ地方ハ現場仕拂精算スヘシ						
乙號 公使領事以下官員在留國內外公用旅行雜費						
勅任一等	全權公使	上級	英貨貳磅六志	銀貨拾圓	但	一日分
同	全權公使	下級	同壹磅拾八志四片	同	八	圓
同二等	辦理公使		同壹磅拾八志四片	同	八	圓
同參代總理領事公使			同壹磅拾志八片	同	七	圓
同二等	領事官		同壹磅六志拾片	同	六圓五拾錢	同

同三等	領書記	事官	同壹磅四志拾壹片	同	六	圓
同四等	領書記	事官	同壹磅三志	同	五	圓
同五等	副交際領官試補	事官	同壹磅	同	四圓五拾錢	同
同六等	副交際領官試補	事官	同拾九志貳片	同	四	圓
判任	書記	主	同拾九志貳片	同	四	圓
勅	任	朝鮮	金	五	圓	但
奏	任	金	同	三圓五拾錢	同	一
判任	四一級年俸マヨリ	同	貳圓五拾錢	同	同	日
同	十五級年俸マヨリ	同	貳圓	同	同	分
丙號	公使領事以下移轉諸費 △印ハ妻携帶費ヲ合ス 但歐米清ハ銀貨朝鮮國ハ紙幣ヲ以テ給ス					
英 露 佛 米 獨 伊 澳 蘭 滑 朝						

交際官并領事費用條例











- 一 來客用食器具ノ類
- 一 來客間掛額鏡ノ類
- 一 時計及花瓶唾器ノ類
- 一 來客用吸煙器ノ類
- 一 暖爐用付屬品
- 一 火燈ノ類
- 一 庖厨具 領事館ニ限ル(朝鮮國ハ官ヨリ之ヲ備付ケス)
- 一 端舟 付屬品共 但領事館ニ限ル
- 一 公使館備付臥具壹組 付屬品共(朝鮮國ハ官ヨリ之ヲ備付ケス 但歐米公使館備付具十一組付屬品共)

右十件其外修葺新規買足トモ公使領事ノ自辦タルヘ

右備付什器買上科目トシテ公館創立ノ際官費ヲ以テ買上追テ修葺又ハ新規買足トモ書面ノ通區分相立取扱可申事

但此科目外從前官費ヲ以テ買上有之分ハ總テ拂下ケ取計代價上納スヘシ

○朝鮮公館附警部ノ官等俸給 明治十九年十二月  
朝鮮國駐在公使館領事館附警部官等俸給ハ勅令第四十二號警視廳官制判任官四等以下ニ準據スヘシ

○無任所外交官年俸 明治十九年四月  
勅令第三十三號

沿革略記 明治十七年五月外務省ヘ達シ以テ無任所外交官月俸ヲ定ム  
○十九年四月勅令第三十三號ヲ以テ無任所外交官年俸ヲ更定ス

朕茲ニ無任所外交官ノ年俸ヲ裁可ス

一 無任所外交官ノ年俸ヲ定ムルコト左ノ如シ

特命全權公使	勅任一等	自貳千三百圓
辦理公使	勅任二等	自千七百圓
代理公使	奏任一等	自千四百圓
公使館參事官	奏任一等	自千四百圓
公使館書記官	奏任二等	自千七百圓
公使館書記官	奏任三等	自千四百圓
公使館書記官	奏任四等	自千二百圓
交際官試補	奏任五等	自五百圓



交際官試補

奏任六等

自三百圓至五百圓

一 無任所外交官外務省參事官ニ兼任セラレタルトキハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ其年俸ヲ支給ス

陸軍武官官等俸給

沿革略記

明治元年二月軍防事務局ヲ置ク○同年閏四月軍防事務局ヲ廢シ事務官ヲ置キ陸軍將ノ官等ヲ定ム○二年

七月軍務官ヲ廢シ兵部省ヲ置キ官位相當ノ制ヲ以テ陸軍大少將ノ官ヲ定ム○同年八月前令ヲ改メ陸軍大少將ノ官位ヲ更定ス○同年同月月給ノ制ヲ廢シ官祿ヲ定ム○三年九月陸軍大少佐大少尉正權曹長ヲ置キ官位ヲ定ム○同年閏十月陸軍下等官給俸等ノ定則ヲ以テ正權並ニ一三三四等曹長一三三三等伍長等ノ月給ヲ定ム○四年七月陸軍士官等ノ給俸諸定則ヲ定メ大少將ハ官祿大少佐大少尉ハ年給金下等士官以下日給金ヲ給シ且佐官尉官職務ノ難易閑劇ニ依リ増俸ヲ給シ下等官ハ食料ヲ給シ伍長等ハ現賄ト定ム○

同年八月兵部省官制ヲ改メ大元帥元帥大少將大少佐大少尉正權曹長軍曹ヲ置キ元帥以下官等ヲ定ム○同年九月官祿ヲ廢シ月給規則ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省中陸軍大少將大少佐等ノ官等ヲ改正ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ陸軍省ヲ置ク○六年四月陸軍省無號達ヲ以テ行軍並陣營轉移與概則ヲ以テ旅次俸給ヲ定ム○同年同月陸軍省達ヲ以テ陸軍給養同備考ヲ定メ武官俸給表等ヲ制シ從前ノ規則此ト矛盾スル者ハ悉ク廢止ス○同年五月第五十四號ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正シ大少將ヲ將官大少佐ヲ上長官大少尉ヲ士官曹長軍曹伍長ヲ下士ト階級ヲ立テ官等ヲ定ム○同年同月第六十號ヲ以テ武官官等表中ヲ改正ス○同年同月第五十七號ヲ以テ中尉少尉ヲ奏任ト爲ス○同年同月陸軍省達少尉試補ヲ置カレテ曹長俸給ヲ一等二等ト爲ス○同年同月陸軍省達ヲ以テ工兵輜重兵ノ俸給ヲ定ム○同年七月陸軍省達ヲ以テ喇叭隊ノ隊長次官以下等級ヲ定ム○同年十月陸軍省達ヲ以テ列外士官下士官ノ増給表ヲ定ム○同年十一月陸軍省達軍醫試補ヲ置カレ官等俸給ヲ定メラル○同年同月第三百九十四號ヲ以テ會計軍醫馬醫三部中ノ中少尉同等官ヲ以テ奏任トス○同年同月陸軍省達ヲ以テ會計軍醫馬醫三部佐官尉官ノ俸給ヲ改正ス○七年二月陸軍省第七十一號達馬醫試補ヲ置カレ



等給ヲ定メラル。○同年十月陸軍省第三百六十七號達會計部  
 中軍吏試補ヲ置カレ官等並俸給支給方ヲ定メラル。○同年十  
 一月第百二十一號布告ヲ以テ陸軍武官官等ヲ改正ス。○八年  
 五月陸軍省第百三十九號達ヲ以テ砲兵方面及砲兵本支廠下  
 士俸給ヲ定ム。○同年九月第百四十五號布告ヲ以テ武官官等  
 表ヲ改正ス。○同年十一月陸軍省達第百二十三號ヲ以テ下士  
 並近衛下士俸給表ヲ改訂ス。○同年十二月陸軍省第百四十四  
 號達ヲ以テ陸軍給與概則ヲ定メ武官ノ俸給第一第二第三並  
 近衛俸給表及各隊ノ俸給表ヲ制定シ九年一月ヨリ施行シ從  
 前ノ給與表等ヲ廢止ス。○十年十一月陸軍省達乙第二百二號  
 ナ以テ曹長下副官兼務スル者ハ身分ノ取扱士官ニ準ス。○十  
 一年十二月陸軍省乙第七十一號達ヲ以テ准官參謀大中少  
 佐大中少尉俸給ヲ定ム。○十二年十月第三十九號達ヲ以テ陸  
 軍武官官等表ヲ改正シ大中少將ヲ將官大中少佐ヲ上長官大  
 中少尉ヲ士官砲工兵上等監護樂長等ヲ准士官曹長軍曹伍長  
 ナ下士トシ官等ヲ定ム。○十三年一月第一號達ヲ以テ軍用電  
 信技手ヲ置キ官等並俸給ヲ定ム。○同年四月陸軍省乙第二十  
 六號達ヲ以テ踏鐵工長以下俸給表ヲ定ム。○同年十二月陸軍  
 省乙第七十六號達ヲ以テ陸軍給與概則ヲ改メ武官ノ俸給表  
 第一表ヨリ第八表迄ヲ制シ十四年一月ヨリ施行ス。○十五年  
 二月陸軍省無號達ヲ以テ開拓使准陸軍武官ヲ陸軍省ニ屬シ  
 俸給支給方ハ從前ノ例ニ仍ラシム。○十六年五月第二十一號

達ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改正ス。○十七年五月第四十四號  
 達ヲ以テ陸軍下士ノ官等ヲ改正ス。○十八年二月第六號達ヲ  
 以テ陸軍武官官等表中軍醫部上長官士官ノ名稱官等及馬醫  
 部ヲ獸醫部トシ其名稱等ヲ更定ス。○同年五月第十七號達ヲ  
 以テ陸軍武官官等表中屯田兵軍樂部士官準士官ノ官等ヲ改  
 正ス。○十八年五月陸軍省乙第五十三號達ヲ以テ陸軍給與概  
 則ヲ改メ俸給第一表ヨリ第八表迄ヲ制シ來ル六月一日ヨリ  
 施行ス。○十九年三月勅令第四號ヲ以テ陸軍武官官等表ヲ改  
 正ス。○同年四月勅令第卅七號ヲ以テ陸軍海軍官官等ヲ定ム

○陸軍海軍武官官等 明治十九年四月  
 勅令第三十七號

朕茲ニ陸軍海軍武官ノ官等ヲ裁可ス

陸軍海軍武官官等

第一條 陸軍海軍大將ハ親任式ヲ以テ叙任スルノ官トシ中將ハ勅任  
 一等少將及相當官ハ勅任二等トス











(別冊) 備員俸給支給規則

- 第一條 備員俸給ハ職務ニ依リ月給又ハ日給トシ毎月二十七日支給スルモノトス
- 第二條 新ニ備入ノキハ職務ニ就タル當日ヨリ解雇死亡ノキハ其當日迄支給スルモノトス
- 但日數計算ノ法ハ其支給スヘキ日數ヲ月額ニ乘シ而シテ其月ノ現日數ヲ以テ除シ四捨五入厘位ニ止メテ給ス
- 第三條 増俸減俸ハ發令ノ翌日ヨリ増減スヘシ
- 第四條 公務旅行中ノ俸給ハ豫メ受取人ヲ定メ發程前ニ具申スヘシ
- 但本人ノ情願ニ依リ翌月分ノ俸給繰上ケ支給スルヲ得
- 第五條 月給ノ者病氣(釋地務共發私事ノ故障)引願遊ニ因リ出務セサル者三十日以後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス
- 第六條 日給ノ者大祭日祝日日曜日等ノ休暇ハ之ヲ支給シ病氣忌引其他不參ノ日ハ總テ支給セサルモノトス
- 陸軍省各官廨筆工圖工雇入制限陸軍省令乙第四十二號
- 各局各官廨等ニ於テ筆工圖工雇入之儀自今常務外臨時取調等ノ爲メ其委員ニ於テ要スル如キ場合若シハ各局各部定員俸給ノ額内ヲ以テ支辨シ得ルノ外相成ラス

○理事錄事官等俸給 明治二十年三月

沿革略記

明治十年一月第十五號達ヲ以テ陸軍裁判長正權評事大中小主理大中小錄事ヲ置キ官等ヲ定ム○十五年五月第二十三號達ヲ以テ陸軍省中更ニ理事理事補審事審事補錄事ヲ置キ官等俸給ヲ定ム○十九年二月第六號布告ヲ以テ陸軍治罪法中改正ニ付審事審事補自ラ廢減ニ屬ス○二十年三月勅令第二號ヲ以テ理事錄事官等俸給ヲ定ム

朕茲ニ理事錄事ノ官等俸給ヲ裁可ス

理事錄事官等俸給

理事ノ官等ハ勅任一等以下奏任六等以上トス其年俸ハ明治十九年勅令第四十一號ニ依ル

錄事ノ官等月俸ハ明治十九年勅令第三十六號ニ依ル

勅令第四十一號ハ本類ニ載ス

勅令第三十六號ハ本類ニ載ス



○陸海軍學校教官官等俸給 明治十九年十一月 勅令第六十八號節錄  
朕茲ニ陸軍及海軍諸學校ニ教官ヲ置クコトヲ裁可ス

陸軍及海軍教官

第二條 教授ノ官等俸給ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依リ助教ノ官等俸給ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル  
武官ヲ以テ教官ニ充ツルトキハ本條ノ限ニアラス

○海軍武官官等俸給

沿革略記 明治元年二月軍防事務局ヲ置ク○同年閏四月軍防事務局ヲ廢シ軍務官ヲ置キ海軍將ノ官等ヲ定ム○二年七月軍務官ヲ廢シ兵部省ヲ置キ官位相當ノ制ヲ以テ海軍大少將ノ官位ヲ定ム○同年八月前令ヲ改メ兵部省中海軍大少將ノ官位ヲ更定ス○同年同月俸給ノ制ヲ廢シ官祿ヲ定ム○三年九月海軍大中少佐大中少尉ヲ置キ官位ヲ定ム○四年

八月兵部省官制ヲ改メ大元帥元帥大中少將大中少佐大中少尉正權曹長軍曹ヲ置キ元帥以下官等ヲ定ム○同年九月官祿ヲ廢止シ月給規則ヲ定ム○同年十月海軍規則並俸給表ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以テ兵部省中海軍大中少將大中少佐等ノ官等ヲ更定ス○同年二月第六十二號ヲ以テ兵部省ヲ廢シ海軍省ヲ置ク○同年四月海軍省乙第拾六號達ヲ以テ曹長以下祿制確定迄假ニ月給ヲ定ム○同年八月海軍省乙第百號達ヲ以テ軍艦乘組從前ノ官等月給ハ都テ相廢シ更ニ軍艦乘組官等表並日給表ヲ定ム○同年九月海軍省乙第百三十號達ヲ以テ中等士官曹長以下祿制ヲ定ム○同年十月第三百五號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ定ム○同年同月海軍省乙第百四十六號達ヲ以テ一等卒以下月給表ヲ定ム○同年五月第百五十四號達ヲ以テ海軍武官官等ヲ改定ス○六年同月第百五十七號達ヲ以テ中少尉ヲ奏任トス○同年六月海軍省甲第百廿三號達ヲ以テ海兵隊伍長副日給ヲ定ム○同年八月第百八十八號ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年同月海軍省甲第百五十九號達文武官官等表改正ニ付テハ追テ相達スル迄月給等ハ從前ノ等級ニ引當支給ス○同年同月海軍省甲第百七十一號達ヲ以テ海軍概則並俸給制ヲ定メ來ル九月一日ヨリ施行ス○同年十一月第三百九十四號達ヲ以テ海軍省軍醫秘書主計機關四科中ノ中少尉相當ノ官ヲ以テ奏任トス○同年十二月海軍省甲第百二十七號達ヲ以テ海軍俸給制中



海兵列外武官加俸表ヲ增補ス○七年五月第四十五號布告ヲ以テ樂隊ノ官等ヲ改ム○同年同月海軍省甲第四十九號達ヲ以テ機關士補俸給制ヲ定ム○八年三月海軍省第三十六號達ヲ以テ軍人軍屬犯罪俸給概則ヲ定ム○同年九月海軍省第三百二十三號達ヲ以テ諸艦船沈沒破壞等ノ節乘組人俸給支給方ヲ定ム○九年五月海軍省第四十五號達ヲ以テ武官ニシテ文官兼任者ノ俸給ハ其多キ方ヲ以テ給シ身分ハ高官ノ方ヲ以テ取扱ハシム○同年七月第六十九號達ヲ以テ軍樂隊官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省番外達ヲ以テ軍樂隊給與表并概則ヲ定ム○同年同月第八十三號布告ヲ以テ武官官等表ヲ改定ス○同年同月第八十三號達ヲ以テ東海西海鎮守府ヲ置ク○同年九月海軍省第七號達ヲ以テ軍醫總監等ノ俸給ヲ定メ其支給方ハ俸給制ニ照準セシム○同年十一月海軍省丙第五十五號達ヲ以テ東海鎮守府司令長官俸給額ヲ定ム○十年三月海軍省丙第四十七號達ヲ以テ文武官兼任者月俸自今文官ノ祿稅ヲ除キ武官ノ俸給ニ比較シ其多キ方ニ就キ支給ス○同年八月海軍省丙第八十四號達ヲ以テ附屬月給加俸ノ區別ヲ定ム○十一年七月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ武官並乘艦文官俸給ヲ改正ス○十二年三月海軍省丙第貳拾五號達ヲ以テ海軍概則並俸給制ヲ改正增補ス○同年十月海軍省丙第九十九號達ヲ以テ兵器局ヲ置キ一等業生以下ノ官等ヲ定ム○十三年四月海軍省丙第三十五號達ヲ以

テ掌砲水兵木工ノ三上長俸給ヲ五等ニ分テ俸給表ヲ改正ス○十四年一月海軍省へ達ヲ以テ海軍武官ヨリ太政官書記官ヲ兼任シ專務ナルキハ俸給太政官ヨリ支給ス○十五年三月海軍省丙第十六號達ヲ以テ兵器工長及三上長屬ノ日給額ヲ定ム○同年六月第三十三號達ヲ以テ海軍武官官等表ヲ改正ス○同年八月海軍省丙第五十六號達ヲ以テ官等表改正ニ付機關主計ノ兩總監及四上長等ノ俸給ヲ改正ス○同年同月海軍省丙第五十七號達ヲ以テ海軍下士以下日給表ヲ定ム○十六年四月海軍省丙第三十九號達ヲ以テ犯罪人俸給概則ヲ廢シ更ニ在監人給與規則ヲ定ム○同年十一月海軍省丙第九十八號達ヲ以テ海軍樂隊概則並ニ俸給表等ヲ定メ從前ノ達ハ總テ廢止ス○同年同月海軍省丙第百五號達ヲ以テ海軍武官待命俸並非職俸ヲ定メ十二月一日ヨリ施行シ下士以上從前ノ非職非役俸ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス○十七年一月海軍省丙第八號達ヲ以テ海軍下士以下給與概則ヲ定ム○同年二月海軍省丙第十九號達ヲ以テ大少將并機關軍醫主計三監ノ俸給ヲ改正ス○同年同月海軍省丙第二十號達ヲ以テ武官待命及非職月俸表中少將并機關軍醫主計三總監俸給ヲ改正ス○同年五月海軍省丙第七十八號達ヲ以テ海軍准士官以上增俸規則ヲ定ム○同年同月海軍省丙第八十四號達ヲ以テ海軍軍樂隊給與概則ヲ定ム○同年七月第六十四號達ヲ以テ海軍武官官等表中掌砲上長以下ヲ廢シ一等兵曹ノ上ニ兵曹上長兵曹







○海軍高等武官俸給令 明治十九年七月  
勅令第五十三號  
朕茲ニ海軍高等武官俸給令ヲ裁可ス

海軍高等武官俸給令

- 第一條 海軍高等武官ノ年俸ハ別表ニ依ル
- 第二條 航行ノ役務ニ服スル艦船ノ定員ニハ第一表ノ甲俸ヲ給シ港内繋留艦船ノ定員ニハ乙俸ヲ給ス  
定員外ニシテ航行ノ艦船ニ乗組ヲ命セラレタル者ニハ第一表ノ乙俸ヲ給シ港内繋留艦船ニ乗組ヲ命セラレタル者ニハ丙俸ヲ給ス
- 第三條 陸上勤務ノ者ニハ丙俸ヲ給ス
- 第四條 鎮守府司令長官軍港司令官ニハ甲俸ヲ給ス

第五條 參謀官及教官ノ職ヲ奉スル者奏任三等以上ニハ年俸百貳拾圓ヲ加給シ四等以下ニハ年俸六拾圓ヲ加給ス

第六條 尉官及其同等官ニ上等俸ヲ給スルハ全員ノ半數ニ超過スルヲ得ス

第七條 軍醫總監主計總監ニシテ多年勤勞アリ成績顯著ナル者ニハ内閣ノ上奏ニ依リ特旨ヲ以テ乙俸ヲ給スルコトアルヘシ

第八條 第一表ニ掲クル武官ニシテ待命ヲ命セラレタル者ニハ丙俸ノ十分ノ七其非職者ニハ丙俸ノ十分ノ五停職解職ニ依ル非職者ニハ丙俸ノ十分ノ三ヲ給ス

第九條 機技總監技監技士ノ年俸ハ第二表ニ從ヒ其事業ノ繁閑ニ應ジ上中下俸ヲ給ス

第十條 第二表ニ掲クル武官ニシテ待命ヲ命セラレタル者及非職者ニハ其本俸ニ照シ第八條ニ準シテ給ス

第十一條 本令ニ關スル細則ハ海軍大臣大藏大臣ト商議シ其省令ヲ







ニ至リ軍樂師ノ月俸ハ一等ヨリ五等ニ至ルモノトス

第三條 甲乙丙種支給區別待命非職ノ支給額及支給ノ細則ハ高等武官俸給令及支給細則ニ依ル但品行不正等ニテ非職ニ入ル者ハ高等武官ノ停職解職ニ準シ支給ス

○海軍高等武官俸給支給細則二十年三月七號  
海軍高等武官俸給支給細則ヲ改定スルコト左ノ如シ  
但本年四月一日ヨリ施行スヘシ

海軍高等武官俸給支給細則

- 第一條 高等武官ノ俸給ハ其年俸ヲ十二分ニ毎月之ヲ支給ス
- 第二條 俸給支給定日ハ毎月末日トス但休暇ニ當ルトキハ其前日ニ繰上ケ支給スヘシ
- 第三條 新任進級轉官其他俸給ニ増減アル當月分ノ俸給ハ總テ日割支給トス
- 第四條 新任ノトキハ發令ノ翌日ヨリ起算シテ其俸ヲ支給ス但職課ヲ命セサル間ハ乘艦者ニハ員外ニ準シ其他ハ陸上勤務ニ準シテ支給ス
- 第五條 進級轉官ノトキハ發令ノ當日マテ前官ノ俸ヲ支給シ其翌日ヨリ現官ノ俸ヲ支給ス増俸モ亦之ニ準ス

第六條 轉職轉勤ノトキ又ハ在職ヨリ待命或ハ非職ニ入りタルトキハ發令ノ日ニ拘ハラス從前ノ事務ヲ終ハリタル當日マテ及待命ヨリ非職ニ入りタルトキハ辭令書到達ノ日マテハ從前ノ俸ヲ支給シ其翌日ヨリ相當ノ俸ヲ支給ス

第七條 退職或ハ死亡若シハ退官廢官ノトキハ日割ヲ以テ計算セス其月ノ俸給全額ヲ支給ス但第二條ノ支給定日ニ拘ハラス其際支給スヘシ

第八條 進級又ハ定員改正等ニ依リ定員ニ超過スル人員アルトキ又ハ定員外ト爲ル者アルトキハ他ニ轉職ヲ命シ或ハ待命又ハ非職ヲ命スル辭令書到達ノ當日マテハ仍ホ其官相當ノ在職俸ヲ給ス

第九條 航行艦ノ繫留艦ト爲リタルトキハ其所屬ノ軍港内若シハ指定ノ港ニ入りタル日マテ又繫留艦ノ航行艦ト爲リ若シハ航行艦其軍港碇泊中繫留艦ト爲リタルトキハ發令ノ到達シタル日マテ從前ノ俸ヲ支給シ其翌日ヨリ相當ノ俸ヲ給ス

第十條 退職免官若シハ廢官ノトキ特ニ命ヲ受ケ事務引繼或ハ殘務取調等ニ從事スルモノハ其間尙ホ從前ノ俸ヲ支給ス但其擔務結了シタルトキハ第七條ニ準ス

第十一條 他所在勤出張又ハ航海中退職免官若シハ廢官ノモノニシテ復命セシムルトキハ其復命終ルマテ其他ハ發令到達マテ尙從前ノ俸ヲ支給ス但發令到達若シハ復命ヲ終ハリタルト



第十二條 兼官或ハ兼職及兼勤ノモノハ本官或ハ本務ノ俸給ニ比較シ多額ニ就キ其應ニ於テ支給シ其俸給ニ差異ナキモノハ本務ノ應ニ於テ支給ス但參謀官及教官ノ職ヲ兼ルモノニ給スル加給ハ其兼務ノ應ニ於テ支給スヘシ

第十三條 甲俸或ハ乙俸ヲ受ル職員ノ代理或ハ心得勤務ヲ命シタルモノニハ本職員ニ準シ甲俸或ハ乙俸ヲ支給ス但兼勤ノモノハ第十二條ニ依ル

第十四條 在職俸ハ其所轄ノ各艦艦船營ニ於テ之ヲ支給ス

第十五條 待命並非職俸ハ會計局ニ於テ之ヲ支給ス但東京ニ在住セサルモノハ之ヲ所在地ノ支應或ハ地方廳ニ依トス

第十六條 昇等或ハ増俸其他事故アリ退給スヘキモノアルトキハ翌月ニ於テ之ヲ支給ス

第十七條 降等或ハ減俸其他事故アリテ退徵スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ヨリ之ヲ扣除ス

第十八條 甲應艦船ヨリ乙應艦船ニ轉シ又ハ在職ヨリ待命非職ニ待命非職ヨリ就職ノ場合ニ於テハ第二條ノ支給定日ニ拘ハラス退應艦船ノ節其應艦船ニ於テ支給スヘシ

第十九條 第十八條ノ場合ニ於テ第十六條ニ依リ退給スヘキモノハ前應ヨリ之ヲ支給シ又第十七條ニ依リ退徵スヘキモノハ前應ヘ之ヲ返納セシム

第二十條 會計ヲ異ニスル應ノ所屬員ヲ借用スルトキハ其間ノ

俸給ハ日數ニ應シ借用應ヨリ其應ニ償還スヘシ但往返ノ日數モ借用日數ニ算入ス

第二十一條 海上二百里以上ノ航海及陸路百里以上ノ旅行ヲ命シタルモノニハ第二條ノ支給定日ニ拘ハラス其際翌月マテノ俸給ヲ繰上ケ支給スルコトヲ得

第二十二條 日割計算ノ法ハ年俸ヲ十二分シ之ニ給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ニテ除シ以テ支給額ヲ得ルモノトス

○准士官教官ニ從事スルトキ加俸 海軍省令第七十六號

○准士官ニシテ教官ノ職ニ從事スル者ハ一日金拾錢ノ加俸ヲ給ス

○喇叭兼務者加俸 海軍省令第八十五號

自今新ニ試験ヲ經喇叭兼務ヲ命スル者ニハ一日金三錢ノ加俸ヲ給ス

○海軍下士以下給與概則 海軍省令第六十七號  
明治十七年五月丙第八十四號 海軍樂隊給與概則ヲ廢シ同年一月丙第八號 海軍下士以下給與概則ヲ改定スルコト左ノ如シ

海軍下士以下給與概則

第一章 總則

第一條 本則ハ下士卒及艦船營傭夫給與ノ制限ヲ掲ルモノトス其目左ノ如シ

一 俸給

二 雜給



第二條 衣服物品食料賜酒料旅費遠洋航海手當及患者被告人等ノ給與規則ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 懲罰令善行章條例掌砲證狀規則運用術教員概則患者免役歸籍假規則死亡者取扱規則及滿期再役志願者取扱規則中給與ニ屬スルモノハ總テ其各條ニ依ル

第四條 第二條及第三條ノ規則中ニ給與法細節ヲ掲ケサルモノハ本則ニ照準スヘシ

第二章 俸給

第五條 下士以下ノ日給ハ第一第二第三表ノ如シ而シテ其服務ノ區別ニ依リ給額ニ差等アルコト第四表ノ如シ之ヲ下士ニ在テハ在職俸卒以下ニ在テハ在役俸ト稱ス

第六條 凡ソ艦船營ノ外陸地各廳ニ從事スル者ノ日給ハ第四表在營ノ定員ニ準シ之ヲ給與ス

第七條 樂手樂生看護手看病夫及ヒ五等卒ハ各服務ノ區別ニ拘ハラズ總テ本給全額ヲ給與ス

第八條 樂手樂生ニハ技藝進歩ノ程度ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第五表ノ技藝加俸ヲ給與ス

第九條 樂手乘艦中ハ第六表ノ加俸ヲ給與ス但艦務ヲ帶ヒ上陸スル者ヲ除クノ外公私旅行其他艦船ニ不在ノ日數中ハ給與セズ

第十條 夏季九十日間小暑ト大暑ノ中間ヲ以テ前後之ヲ計算ス或ハ熱帶地方ニ

於テ機關運轉中ハ機關手及ヒ火夫ニハ各其本給十分ノ三ヲ加俸トシ其他ノ者ヲシテ機關部ノ業ニ從事セシムル時ハ一日金拾八錢ヲ加俸トシテ其日數ニ應シ之ヲ給與ス又蒸溜水ヲ要シ點火スル時モ之ニ準ス

第十一條 喇叭兼務ノ水兵ニハ其技藝ノ巧拙ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第七表ノ加俸ヲ給與ス但樂手ハ第九條ニ依ル

第十二條 艦隊司令長官司司令官司次官若クハ外國教師乘組ノ艦船ニ於テ洋食調理ヲ兼勤セシムル者ニハ其技藝ノ巧拙ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第八表ノ加俸ヲ給與ス

第十三條 艦船乘員上陸規則ニ依リ其他一般ニ賜ハル休日ハ在職或ハ在役俸及加俸トモ總テ之ヲ給與ス

第十四條 恩給令第十八條ニ據テ休暇ヲ命セラレタル下士ハ其日ヨリ恩給ヲ賜ル始期ノ前日迄本給十分ノ七ヲ給與ス

第十五條 事業上負傷セシ者ハ治療中當時ノ在職或ハ在役俸ヲ給與ス但治療中退職退役或ハ黜陟若クハ犯罪セシ者ハ此限ニ在ラス

第十六條 傷疾疾病ニ罹リ艦船營内ニ在テ治療中其他陸上勤務ノ者一週日以内ノ缺勤ハ軍醫若クハ地方醫ノ診斷ニ依リ所轄長之ヲ認可シタル者ニ限り尙ホ在職或ハ在役俸ヲ給與ス

第十七條 下士待命及非職ノ俸給ハ第九表ノ通之ヲ給與ス其支給法左ノ如シ



一 待命俸ハ其職務ヲ免シ待命ヲ命スル者ニ之ヲ給與ス  
 二 非職甲俸ハ其職務ヲ免シタル者或ハ其官ニ任シ而シテ職務ノ命ナキ者ニ之ヲ給與ス  
 但地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ給料ヲ受ル時間ハ本項ノ限ニ在ラス第三項モ亦同シ  
 三 非職乙俸ハ品行不正等ニ依リ職務ヲ免シタル者ニ之ヲ給與ス  
 但非職乙俸ヲ給與スル時ハ別ニ令達アルモノトス  
 第十八條 下士願ノ上歸省スル時ハ出發ノ日ヨリ歸着ノ前日迄其許可日數以內ニ限リ本給十分ノ五ヲ給與ス  
 第十九條 下士以下ヲ海軍部外ノ各廳ヘ貸與スル時ハ其日ヨリ歸到ノ前日迄本給十分ノ三ヲ給與ス而シテ先方ヨリ職役相當ノ給料ヲ受ル者トス  
 但奏樂ノ爲メ樂隊ヲ一時貸與スルハ此限ニ在ラス  
 第二十條 傷疾疾病ニ罹リ入院若クハ陸地施療ノ者ハ其艦船營及ヒ各廳ヲ離レタル日ヨリ歸到ノ前日迄下士ハ本給十分ノ五率以下ハ本給十分ノ三ヲ給與ス  
 第二十一條 賜暇歸省ノ未延期退願其他私事ヲ以テ職役ニ從事セザル其日數中ハ假令允許ヲ得ル者ト雖モ凡テ俸給ヲ停止ス  
 第二十二條 前各條ノ俸給制限ニ據リ其給與法細節ヲ示ス左ノ如シ  
 一 凡ソ俸給ハ現役兵ニ編入又ハ傭入ノ當日ヨリ退職退役

或ハ解免死亡等ノ當日迄之ヲ給與ス但服役中ト雖モ俸給スヘキ制規アルモノハ此限ニアラス  
 二 轉職及黜陟ノ時ハ辭令ノ本人ニ達シタル日ヨリ其俸給與ス俸給増減又ハ勤務場所移轉ノ時モ之ニ準ス  
 三 俸給ニ異動アル時分數ヲ以テ定ムル給額ニ不盡ノ數アルモノハ四捨五入ノ算則ニ據リ其同額ノ每計ニ於テ之ヲ決算スヘシ  
 四 艦船航海中ニ於テ免乗若クハ本艦船ニ在乗スルヲ得サレ歟或ハ出張中ニ於テ其職務ヲ免シタル時ハ本管廳ヘ歸到ノ日迄尙ホ從前ノ在職或ハ在役俸ヲ給與ス  
 五 第二項其他轉任ノ場合ニ於テ其俸ヲ給與スル時ハ總テ其前日迄從前ノ俸ヲ給與スヘキモノトス  
 第二十三條 俸給渡日ハ毎月末ノ日ヲ以テ定日トス其日公休暇ニ當ル時ハ其前日ニ線上ケ相渡スヘシ但所轄替ノ時ハ其際相渡スヘシ  
 第二十四條 艦船航海或ハ旅行ニ際シ俸給線上或線替渡方ハ本人ノ出願ニ依リ左ノ制限ヲ以テ相渡スヘシ  
 但返納セシムヘキ時ニ臨ミ滯滞ナキ時期スル爲メ豫テ下士二名以上之カ保證ヲ爲サシム  
 一 海上二百里以上ノ航海及ヒ日數十日以上ヲ要スル公務旅行ノ時ハ發程ノ日ヨリ後ヲ三十日分以內  
 二 制規ニ依テ賜ル休暇中歸省若クハ旅行ノ者ハ其許可日



數以內  
 三、外國航海ニヨリ不在中部理代人ヲ置キ月々請取方請願ノ者ハ該艦船長ノ添請ニ應シ會計局又ハ鎮守府ニ於テ繰替相渡スヘシ  
 第二十五條 第二十三條及第二十四條ニ依テ俸給支給ノ後、昇降轉免若クハ死亡罪犯等其他事故アル者ハ各條規ニ照ラシ退給或ハ返納セシムヘシ  
 第二十六條 凡ソ俸給ハ本人所轄ノ各艦船營ニ於テ給與スヘキモノトス但海軍部内ニ於ル貸借員ハ借受タル各艦船營ノ其所轄員ニ進ス

第三章 雜給

第二十七條 艦船航海中端舟ニ乗組出測或ハ水底ノ事業又ハ難破船漂流人救援等其他非常ニ勞動スル者ハ手當トシテ一日金拾錢ヲ限リ之ヲ給與シ追テ詳悉届出ヘシ  
 第二十八條 陸地各廳勤務ノ者營舎ニ起臥スルヲ得サル時ハ其日數ニ應シ手當トシテ一日金五錢ヲ給與ス但貸借員モ之ニ準ス  
 第二十九條 軍樂員ニ禮式或ハ饗應其他奏樂ノ爲メ出場ヲ命シタル節其場若クハ途中ニ於テ食事時刻ニ及フ時ハ一食金拾五錢ヲ以テ現賄ヲ給與ス但旅費ヲ受ル者ハ給與スヘキ限ニアラス  
 第三十條 軍樂員海軍將校其他ノ請求ニ應スル時ハ第二十九條

ニ準シ其請求者ヨリ相當ノ賄料ヲ受ル者トス

下士日給表

七拾五錢	六拾錢	四拾八錢	三拾七錢	三拾四錢	三拾壹錢	貳拾八錢	貳拾五錢
一等警吏	一等警吏	一等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹
一等艦内教授	一等艦内教授	二等艦内教授	二等艦内教授	三等艦内教授	三等艦内教授	三等艦内教授	三等艦内教授
一等警吏	一等警吏	二等警吏	二等警吏	三等警吏	三等警吏	三等警吏	三等警吏
一等軍樂手	一等軍樂手	二等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手	三等軍樂手	三等軍樂手	三等軍樂手
一等機關手	一等機關手	二等機關手	二等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手	三等機關手
一等松匠手	一等松匠手	二等松匠手	二等松匠手	三等松匠手	三等松匠手	三等松匠手	三等松匠手
一等水雷工手	一等水雷工手	二等水雷工手	二等水雷工手	三等水雷工手	三等水雷工手	三等水雷工手	三等水雷工手
一等鍛冶手	一等鍛冶手	二等鍛冶手	二等鍛冶手	三等鍛冶手	三等鍛冶手	三等鍛冶手	三等鍛冶手
一等看護手	一等看護手	二等看護手	二等看護手	三等看護手	三等看護手	三等看護手	三等看護手
一等筆記	一等筆記	二等筆記	二等筆記	三等筆記	三等筆記	三等筆記	三等筆記
一等主厨	一等主厨	二等主厨	二等主厨	三等主厨	三等主厨	三等主厨	三等主厨

卒日給表

貳拾五錢	貳拾貳錢	拾九錢	拾六錢	拾三錢	八錢	七錢
一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵	一等若水兵	二等若水兵	
一等火夫	二等火夫	三等火夫	四等火夫	一等若火夫	二等若火夫	
一等樂生	二等樂生	三等樂生				

海軍高等官武官俸給令







第九名	稱	命	非	職	甲	非	職	乙
給	額	本給十分ノ七	本給十分ノ五	本給十分ノ三				

○裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸 明治十九年五月勅令第四十一號

沿革略記 明治二年七月官位相當ノ制ヲ以テ刑部省大判事以下官位ヲ定ム○同年八月刑部省大判事以下ノ官位ヲ改正ス○四年七月刑部省大判事ヲ廢シ司法省ヲ置ク○同年八月官位相當ノ制ヲ廢シ官等ヲ十五等ト爲シ大判事以下ノ官等ヲ定ム○同年十月判事解部ノ官等ヲ改正ス○五年八月第二百十八號ヲ以テ司法省官等表ヲ改メ諸裁判所長判事檢事以下官等ヲ定ム○八年五月第七十二號布告ヲ以テ大檢事以下官等ヲ改正ス○同年同月第七十三號布告ヲ以テ正權大中少判事及解部ヲ廢シ一等判事以下ヲ置キ官等ヲ定ム○十年六月第四十六號達ヲ以テ一等判事以下ヲ廢シ更ニ勅委任判事ヲ置キ年俸ヲ定メ又大檢事以下ヲ廢シ檢事ヲ置キ月俸ヲ定ム○同年同月第五十四號達ヲ以テ判事檢事ノ官等相當ヲ廢ス○

十二年十二月第五十六號達ヲ以テ檢事長ヲ廢シ更ニ勅任檢事ヲ置キ判事檢事ノ年俸ヲ改ム○十六年十二月第六十五號達ヲ以テ判事檢事ノ年俸ヲ改正シ而シテ三等官相當並ニ五等官相當以下年俸ニ等差ヲ立ツ○十九年五月勅令第四十一號ヲ以テ裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸ヲ更定ス

朕茲ニ裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ヲ裁可ス

裁判官檢察官大審院控訴院書記官年俸

第一條 裁判官檢察官大審院控訴院書記官ノ年俸ハ別表定ムル所ニ依ラシム

第二條 現任裁判官及檢察官ノ年俸ハ舊ニ依リ支給ス新ニ裁判官檢察官大審院又ハ控訴院ノ書記官ニ任セララル、モノ又ハ現任ノ裁判官檢察官ノ今後官等ヲ陞叙セララル、モノハ別表定ムル所ニ依リ其年俸ヲ支給ス

別表

官	勅	任	奏	任
等	一	二	一	二
	等	等	等	等
	一	二	三	四
			等	等
			五	六
			等	等



十九年閣令第十號ニテ判  
事補檢事補ハ姑ク之ヲ置  
キ月俸ハ從前ノ通トス

○判事同補檢事同補官等俸給明治十六年十二月  
第六十五號達節錄  
明治十年六月第四拾六號同年七月第五拾四號同十二年十二月  
第五拾六號達判事檢事判事補檢事補年俸月俸左ノ通改正候條此旨相達候  
事

判事	勅任	一等官相當 年俸 四千八百圓	二等官相當 年俸 四千五百圓	三等官相當 年俸 四千貳百圓	四等官相當 年俸 三千五百圓	五等官相當 年俸 三千圓	六等官相當 年俸 貳千四百圓	七等官相當 年俸 貳千二百圓	八等官相當 年俸 貳千圓	九等官相當 月俸 四拾五圓	十等官相當 月俸 四拾圓	十一等官相當 月俸 三拾五圓	十二等官相當 月俸 三拾圓	十三等官相當 月俸 二拾五圓	十四等官相當 月俸 二拾圓
	奏任	年俸 五千圓	年俸 四千五百圓	年俸 四千圓	年俸 三千五百圓	年俸 三千圓	年俸 二千五百圓	年俸 二千圓	年俸 一千八百圓	年俸 一千六百圓	年俸 一千四百圓	年俸 一千二百圓	年俸 一千圓	年俸 八百圓	年俸 五百圓
判事	勅任	年俸 五千圓	年俸 四千五百圓	年俸 四千圓	年俸 三千五百圓	年俸 三千圓	年俸 二千五百圓	年俸 二千圓	年俸 一千八百圓	年俸 一千六百圓	年俸 一千四百圓	年俸 一千二百圓	年俸 一千圓	年俸 八百圓	年俸 五百圓
判事	奏任	年俸 五千圓	年俸 四千五百圓	年俸 四千圓	年俸 三千五百圓	年俸 三千圓	年俸 二千五百圓	年俸 二千圓	年俸 一千八百圓	年俸 一千六百圓	年俸 一千四百圓	年俸 一千二百圓	年俸 一千圓	年俸 八百圓	年俸 五百圓

五百四十四

○帝國大學官等明治十九年三月勅令第九號

沿革略記 明治元年十二月昌平開成醫學ノ三校ニ一等二等三等  
教授ヲ置ク○二年七月官位相當ノ制ヲ以テ大學校大  
少監大中少博士大中少助教以下官位ヲ定ム○同年八月官位  
相當ノ制ヲ改定シ大學校ニ別當大少監大中少博士等ヲ置キ  
官位ヲ定ム○同年十一月權大少主簿ヲ置キ主簿ノ官位ヲ更  
定ス○三年三月大學寮長ヲ改メ舍長ト稱シ大中少舍長ヲ置  
キ官位ヲ定ム○四年七月大學ヲ廢シ文部省ヲ置キ尋テ大中  
少博士大中少助教以下ヲ置キ官位ヲ定ム○同年八月官位相  
當ノ制ヲ廢シ官等十五等ヲ立テ文部省中大中少博士大中少  
教授大中少助教ヲ置キ官等ヲ定ム○五年正月第十六號ヲ以  
テ官等ヲ改メ文部省中大中少博士大中少教授大中少助教ノ  
官等ヲ定ム○同年九月第二四十六號ヲ以テ大中少博士以  
下ノ教官名ヲ廢シ更ニ大中小學ニ大中少教授大中少助教ヲ  
置キ官等並學士稱號ヲ定ム○六年八月第二九十六號ヲ以  
テ文部省中教官等ノ等次ヲ改メ教授教諭訓導ヲ置キ各一等  
ヨリ五等ニ至ル又一等教授以上ヲ奏任二等教授以下ヲ判任  
ノ待遇ニ定ム○八年五月第八十四號達ヲ以テ前令教員ノ官  
等ヲ廢シ文部省直轄官立學校教員ノ等次ヲ定ム○十年八月

帝國大學官等

五百四十五



第五十八號達ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ東京大學ニ教授助教授等ヲ大學豫備門其他各學校ニ訓導助訓ヲ置ク○十四年六月第五十一號達ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ官立學校圖書館教育博物館職制ヲ以テ總理長教授以下ヲ置キ勅任奏任ニ等別ス○十五年一月第九號達ヲ以テ東京大學ニ幹事ヲ置キ等次ヲ總理ノ下ニ列ス○十七年十月第九十二號達ヲ以テ東京大學ニ副總理ヲ置キ勅任并奏任ト爲ス○十八年五月文部省第一號告示ヲ以テ農商務省所轄東京商業學校ヲ文部省ノ所轄ニ屬ス○同年十二月第七拾號達ヲ以テ工部省ヲ廢シ工部大學ハ文部省ニ屬セシム○十九年三月勅令第九號ヲ以テ帝國大學職員官等ヲ定ム

全文ハ第一類官制ノ部ニ載ス參看

朕茲ニ帝國大學ノ職員官等ヲ裁可ス

帝國大學職員官等

(以下略之)

○帝國大學其他諸學校俸給支俸方明治十九年七月二十六號閣令第二十六號帝國大學其他文部省所轄諸學校ノ教官ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ勅令第六號高等官官等俸給令官等相當俸給令以下ノ額ヲ支給スルコトアルヘシ

○大小林區署判任官官等俸給令明治十九年六月閣令第十三號大小林區署判任官官等俸給令ヲ定ムルコト左ノ如シ

大小林區署判任官官等俸給令

第一條 大小林區署判任官ノ官等俸給ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二條 大小林區署判任官ノ昇等毎等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ

勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第三條 大小林區署判任官ノ昇等スルモノハ先ツ下級俸ヲ支給シ每

級一年ヲ踰エルニアラサレハ増俸スルコトヲ得ス但九圓以下ノ月

俸ヲ受クルモノハ此限ニアラス

(別表)

勅令第三十六號ハ本類ニ載ス

判

任

官

大小林區署判任官官等俸給令

五百四十七



官名	林務官補			營林主事			森林監守													
	俸年			俸月			俸月													
	上	中	下	上	中	下	一級	二級	三級											
一等	七百圓	六百六拾圓	六百三拾圓																	
二等	六百圓	五百八拾圓	五百六拾圓																	
三等	五百四拾圓	五百貳拾圓	五百圓																	
四等	四百八拾圓	四百六拾圓	四百四拾圓	四百八拾圓	四百六拾圓	四百四拾圓														
五等	四百貳拾圓	四百圓	三百八拾圓	四百圓	三百貳拾圓	三百圓														
六等	三百六拾圓	三百四拾圓	三百貳拾圓	三百四拾圓	三百貳拾圓	三百圓														
七等	三百圓	貳百八拾圓	貳百六拾圓	貳百八拾圓	貳百六拾圓	貳百四拾圓	貳拾五圓	貳拾三圓	貳拾壹圓											
八等				貳百四拾圓	貳百貳拾圓	貳百圓	貳拾圓	拾八圓	拾六圓											
九等				百八拾圓	百六拾圓	百四拾圓	百五拾圓	拾四圓	拾二圓											
十等							一級拾貳圓	三級拾圓	四級九圓	五級八圓	六級七圓	拾圓	九圓	八圓	七圓	六圓	五圓	四圓	三圓	二圓

五百四十八

○三等郵便局長ハ手當ヲ給ス關令第十九年六月十五號  
 三等郵便局長ハ判任官官等俸給令ニ依ラス一箇年四百圓以下ノ手當  
 ナ適宜支給ス

○三等郵便局長手當金年額 十九年六月十六號  
 三等郵便局長手當金年額左表ノ通之ヲ定ム  
 三等郵便局長手當金額

官等	七等以上	八等	九等	十等
上級	四百圓以下 七拾貳圓以上	四拾八圓	貳拾四圓	拾貳圓
下級	六拾圓	三拾六圓	拾八圓	九圓六拾錢

三等郵便局長ハ手當ヲ給ス

五百四十九



○技術官官等俸給令 明治十九年四月 勅令第三十八號

沿革略記 明治四年八月工部省官制ヲ以テ技術官官等ヲ定ム○  
 同年十二月工部省各科工術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差  
 ヲ立ツ○五年十月第三百五號ヲ以テ海軍省官等ヲ改正シ匠司  
 以下官等ヲ定ム○六年二月大藏省土木寮藝員官等月俸ヲ定  
 ム○同年六月第三百三十三號ヲ以テ海軍省技術工長以下ノ  
 官等ヲ定ム○七年三月第三十二號達ヲ以テ土木寮藝員ヲ總  
 テ出仕トシテ等級ヲ立テ其等級ヲ以テ月俸ヲ定メ并測量司  
 技術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ立ツ○七年六月海軍省技術  
 大師以下月俸ヲ改正ス○同年八月第百十三號達ヲ以テ地理  
 寮技術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ立ツ○八年九月第百六十  
 五號達ヲ以テ大藏省造幣寮技術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ  
 立ツ○九年八月第百十三號布告ヲ以テ海軍省文武官官等表  
 ヲ以テ技術官ノ官等ヲ改正ス○同年十二月第百十四號達ヲ  
 以テ工部省各科工術ノ官等ヲ改正ス○十年一月第百十五號達  
 ヲ以テ海軍省技術官ノ官等ヲ改正ス○十年二月第廿三號達  
 ヲ以テ工部省一等技長以下ヲ廢シ更ニ大技長以下ヲ置キ官  
 等月俸ヲ定メ又各省諸寮廢セラレタルニ付更ニ大藏省中造

朕茲ニ技術官官等俸給令ヲ裁可ス

幣局ヲ置キ技術ノ官等月俸ヲ定メ七等官以下月俸ニ等差ヲ  
 立ツ○十二年三月第十六號達ヲ以テ工部省工術ノ官等ヲ改メ  
 月俸ニ等差ヲ立ツ○十三年一月第五號達ヲ以テ工部省中各  
 科工術ノ内技長以上月俸ヲ改正ス○十五年一月第七號達ヲ  
 以テ工部省各科工術ノ官等月俸ヲ改正ス○同年五月第三十  
 號達ヲ以テ十年第二十三號達中大藏省中技術官ノ等級ヲ廢シ更  
 ニ技術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ立ツ○十六年三月第十三  
 號達ヲ以テ農商務省中技術ノ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ立ツ  
 ○十六年五月第二十號達ヲ以テ內務省中技術ノ官等ヲ定メ  
 月俸ニ等差ヲ立ツ○十六年十二月第五十八號達ヲ以テ海軍  
 省技術官ノ名稱官等并月俸ヲ改正ス○十七年五月第四十二  
 號達ヲ以テ工部省各科工術ノ官等並ニ月俸ヲ改正ス○十七  
 年五月第五十三號達ヲ以テ內務省技術ノ等級并月俸表中一  
 等技師ノ上ニ技監ヲ置キ官等ヲ定メ月俸ニ等差ヲ立ツ○十  
 八年十二月第七十九號達鐵道局官制ヲ以テ技監以下ノ官等  
 並俸給ハ十七年第四十二號達工部省各科工術等級並月俸表  
 中工部省ヲ鐵道局ト改メ其定ムル所ニ依ル○十九年四月勅  
 令第三十八號ヲ以テ各廳技術官官等俸給令ヲ定ム



技術官官等俸給令

第一條 各廳ニ於テ工藝技術ヲ要スルモノハ職員ノ外特ニ技術官ヲ置ク

第二條 技術官ヲ分テ技監技師技手トス

第三條 技監ハ勅任トシ技師ハ奏任トシ一等技師ヨリ六等技師ニ至リ技手ハ判任トシ一等技手ヨリ十等技手ニ至ル

第四條 技監技師ノ叙任奏薦辭令書同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第五條 技手ノ月俸ハ別表定ムル所ニ從ヒ各廳俸給定額内ニ於テ事業ノ繁簡ニ應シ便宜増減支給ス

第六條 技手ハ各廳ノ便宜ニ從ヒ別表技手俸給範圍内ニ於テ日給トナスコトヲ得

第七條 技手ノ昇等毎等ノ定員特別増俸及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

勅令第六號ハ本類ニ載ス

勅令第三十六號ハ本類ニ載ス

第八條 技手ノ人員ハ事業ノ繁簡ニ從ヒ本屬大臣ノ定ムル所ニ依ル

但定員ノ外俸給定額内ニ於テ臨時雇員ヲ使用スルコトヲ得

第九條 日給ノ技手疾病ニ罹リ缺勤三十日以内ニシテ其證據明白ナルトキハ日給ノ半額ヲ給スルコトアルヘシ但公務ニ依リ傷痍シ又ハ疾病ニ罹リタル者ハ本條ノ限ニアラス

第十條 日給技手ヲ定時間外ニ服業セシムルトキハ俸給定額内ニ於テ便宜加給スルコトヲ得

第十一條 日給技手ヲ除クノ外總テ技術官ハ其主務ノ便宜ニ依リ其年俸又ハ月俸ノ半額ヲ給シ之ニ休職ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 技術官ニシテ休職ヲ命セラレ普通文官ノ事務ヲ兼ヌルモノハ兼官ニ就テ其年俸又ハ月俸ヲ給ス但此ノ場合ニ於テハ別ニ休職俸ヲ給セス

(別表)

判	任	官
---	---	---



下 圓六拾	中 圓七拾	上 圓八拾	手 一等技
五拾圓	六拾圓	七拾圓	手 二等技
圓四拾五	五拾圓	圓五拾五	手 三等技
四拾圓	圓四拾五	五拾圓	手 四等技
圓三拾五	四拾圓	圓四拾五	手 五等技
三拾圓	圓三拾五	四拾圓	手 六等技
圓貳拾五	三拾圓	圓三拾五	手 七等技
貳拾圓	圓貳拾五	三拾圓	手 八等技
拾五圓	圓拾五	圓貳拾五	手 九等技
拾貳圓	拾五圓	拾八圓	手 十等技

五百五十四

○元老院高等官官等年俸 明治十九年三月 勅令第十二號

沿革略記 明治八年四月第六十七號布告ヲ以テ議長以下ノ官等  
ヲ定ム ○同年同月議長議官ノ年俸ヲ定ム ○同年十一  
 月議官ノ年俸ヲ改正ス ○十八年三月第十號達ヲ以テ議長以  
 下議官以上ノ官等年俸ヲ改正ス ○十九年三月勅令第十二號  
ヲ以テ議長以下書記官以上ノ官等年俸ヲ改正ス

朕元老院議長副議長議官書記官ノ官等年俸ノ改正ヲ裁可ス  
 元老院議長副議長議官書記官官等年俸

議長	勅任	五千圓
副議長	勅任一等	四千圓
議官	勅任一等	三千五百圓
議官	勅任二等	三千圓
書記官	奏任一等	上貳千四百圓 下貳千貳百圓
書記官	奏任二等	上貳千圓 下千八百圓
書記官	奏任三等	上千六百圓 下千四百圓

元老院高等官官等年俸

五百五十五



書記官

奏任四等

上千貳百圓  
下千圓

○警視廳官等俸給

沿革略記 明治七年一月第六號達ヲ以テ東京警視廳ヲ置キ警視長以下官等ヲ定ム○同年二月第十五號布告ヲ以テ東京警視廳中巡查ヲ置キ等級ヲ定ム○同年十月第百三十六號達ヲ以テ正權中警視ヲ置キ正權大中警視ノ官等ヲ更定シ少警視以下ハ舊ニ依ル○同年十二月第百六十八號達ヲ以テ警視廳中警部補ヲ置キ官等ヲ定ム○十年一月第四號布告ヲ以テ警視廳ヲ廢止シ從前ノ事務內務省ニ付ス○同年同月第十五號達ヲ以テ內務省中警視官ヲ置キ大警視以下官等ヲ定ム○同年十一月第八十三號達ヲ以テ警部官等ヲ改メ正權大警部中少警部及警部補ト爲ス○十四年一月第一號達ヲ以テ東京府下ニ警視廳ヲ置キ警視正副總監以下官等ヲ定メ奏任以上ノ月給ハ文官一般ノ例規ニ依リ警視屬巡查正副長警察副

使消防大中少司令正副典獄等ヲ判任トシ月俸ニ等差ヲ立ツ  
 ○同年三月第二十三號達ヲ以テ消防少司令月給ヲ改正ス○同年七月第六十號達ヲ以テ警察副使月俸ヲ改正ス○十五年六月第三十八號達ヲ以テ巡查正副長巡查部長并消防大中少司令看守正副長ノ月俸ヲ改正ス○十七年六月第五十六號達ヲ以テ十四年第一號達官等俸給表中八等官相當ノ月給ニ等差ヲ立ツ○十八年七月第三十四號達警視廳職制ヲ以テ警視正副總監以下巡查看守以上官等月俸ヲ改正ス○十九年一月內閣第四號達ヲ以テ巡查奉職滿九年以上十二年以下ハ月給十二圓滿十二年以上ハ月給十五圓ヲ給スルコトヲ得セシム  
 ○同年五月勅令第四十二號ヲ以テ警視廳官制ヲ更定シ警部同補消防司令同補及看守長同補ノ官等月俸表ヲ定ム

○警視廳判任官官等俸給 明治十九年五月  
 朕警視廳ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
 警視廳官制  
 (別表)

判	任	官
---	---	---

警視廳官等俸給



官等	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等
警部	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
警部令	四拾五圓	四拾圓	三拾六圓	三拾貳圓	貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
警部長					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
警部補					貳拾八圓	貳拾四圓	貳拾圓			
消防司令					拾八圓	拾五圓	拾貳圓			
消防副司令					拾八圓	拾五圓	拾貳圓			
看守長					拾八圓	拾五圓	拾貳圓			
看守副長					拾八圓	拾五圓	拾貳圓			

○警視廳巡查看守官等俸給明治十八年七月第三十四號達節錄

警視廳職制并事務章程左ノ通改定候條此旨相達候事

等	外	月	給
巡查	六拾圓	圓	以下
看守	六拾圓	圓	以上

巡查奉職滿九年以上十二年以下八月給拾貳圓滿十二年以上八月給拾五圓ヲ給スルコトヲ得(十九年一月達ヲ以テ)

警視廳職制并事務章程八十九年勅令第四十二號ヲ以テ更定スルモ唯巡查看守官等俸給ノミ存在スルヲ以テテ之ヲ載ス

判任官俸給支給細則ハ本類ニ載ス

○巡查看守俸給支給規則 內務省令第二十號 二十三年

但來十一月一日ヨリ施行スヘシ

巡查俸給支給規則

第一條 巡查看守ノ月俸ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルトキハ繰上トス

第二條 巡查教習中ハ認可ヲ經テ定額ノ俸給ヲ減少支給スルヲ得

第三條 免職ノトキハ當月分ノ俸給日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 願濟休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ出署セサルモノ日數二十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第五條 豫備及後備軍籍ニアル者召集ノ節其出發ノ日ヨリ歸署ノ前日迄ハ俸給ヲ支給セス

第六條 右ニ掲クルモノ、外ハ判任官俸給支給細則ニ依ル

○地方官官等俸給令 明治十九年七月第五十五號

地方官官等俸給令



沿革略記 明治元年閏四月官制ヲ改メ知府事知縣事以下官等ヲ  
 定ム○同年七月假ニ關東縣官知縣事以下月俸ヲ定ム  
 ○同年十二月假ニ與羽縣官權知縣事以下官等ヲ定ム○二年  
 七月官制ヲ改正シ官位相當ノ制ヲ以テ位階ヲ十八階トシ府  
 藩縣知事以下ノ官位ヲ定ム○同年八月官制ヲ更定シ位階ヲ  
 二十階ト爲シ府藩縣權知事大參事以下官位ヲ改正ス○三年  
 九月府縣ニ廳掌ヲ置キ官位ヲ定ム○四年正月縣ニ權大參事ヲ  
 置キ官位ヲ定ム○同年七月藩ヲ廢シテ縣ヲ置ク○同年十一  
 月縣知事ヲ縣令ト改正シ官等ヲ定ム○同年同月府縣官官等  
 ヲ改正ス○同年十二月府掌縣掌ヲ置キ官等ヲ定ム○五年正  
 月第十六號ヲ以テ官等ヲ改メ府知事縣令以下官等ヲ定ム○  
 六年八月第二百八十五號ヲ以テ府縣正權大中屬官等ヲ改正  
 ス○同年同月第二百八十七號ヲ以テ府縣判任官以下月俸ヲ  
 改正シテ等差ヲ立ツ○七年五月第六十九號達ヲ以テ府縣判  
 任以下月俸ノ等差ヲ廢シ官等相當ニヨリ支給ス○八年十月  
 第五百五十八號布告ヲ以テ府縣ニ一等警部以下六等警部以上  
 ヲ置キ官等ヲ定ム○九年二月第十號布告ヲ以テ府縣(東京府)  
 ニ七等警部ヲ置キ官等ヲ定ム○十年一月第六號達ヲ以テ府  
 縣參事以下ヲ廢シ正權知事大少書記官以下官等月俸ヲ定ム  
 ○同年一月第十一號達ヲ以テ府縣(東京府)以下官等月俸ヲ定ム  
 ○同年七月第三十二號達ヲ以テ郡長ノ官等ヲ八等  
 相當ニ郡書記ヲ十等以下相當ト定ム○同年八月第四十四號

テ東京府區長ヲ七等官相當ト定ム○同年十一月第四十八號  
 達ヲ以テ勅任府知事縣令ノ官等ヲ定ム○十三年五月第三十  
 一號達ヲ以テ東京區長ノ月俸ヲ百圓以內ト定ム○十四年三  
 月第十五號達ヲ以テ府縣ニ典獄以下ヲ置キ官等月俸ヲ定ム  
 ○十四年十一月第九十八號達ヲ以テ警部長官等月俸ヲ定ム  
 ○同年十二月第百一十一號達ヲ以テ府縣警部以下ノ等級ヲ廢  
 シ更ニ警部以下ノ月俸ヲ定ム○十七年五月第四十七號達ヲ  
 以テ府縣ニ收稅長收稅屬ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○十八年七  
 月第三十八號達ヲ以テ前令中十七等官相當收稅屬ノ月俸ニ  
 等差ヲ立ツ○十八年十二月第六十五號達ヲ以テ府并開港場  
 鎮臺控訴裁判所アル縣ノ警部長ノ官等ヲ更定ス○十九年七  
 月勅令第五十五號ヲ以テ地方官官等俸給令ヲ更定ス

朕茲ニ地方官官等俸給令ヲ裁可ス

地方官官等俸給令

第一條 知事ノ年俸ヲ定ムル左ノ如シ

勅任二等 上四千五百圓  
 下四千圓  
 奏任二等 上三千五百圓  
 下三千圓

第二條 知事ハ五年ヲ踰ユルニアラサレハ其年俸ヲ増給セス

地方官官等俸給令



勅令第六號ハ本類ニ載ス  
勅令第三十六號ハ本類ニ載ス

第三條 東京府知事ノ勅任一等ニ陞リタル場合及知事ノ叙任特例ハ勅令第六號高等官官等俸給令ニ依ル

第四條 書記官警部長收稅長郡區長ノ叙任同等内ノ順序定員年俸及陞叙特例ハ前條ニ同シ

第五條 屬典獄副典獄郡區書記監獄書記ノ俸給昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ勅令第三十六號判任官官等俸給令ニ依ル

第六條 警部警部補看守長看守副長及收稅屬ノ俸給ハ別表定ムル所ニ依リ昇等每等ノ定員及在官死亡者ノ賜金ハ前條ニ同シ

別表

警部	官 等 一	判 任 官	看守長	警部補	看守副長	
	四拾五圓					
	四拾圓					
	三拾六圓					
	三拾貳圓					
	貳拾八圓				貳拾八圓	
	貳拾四圓				貳拾四圓	
	貳拾壹圓				貳拾壹圓	
				拾八圓	拾八圓	
				拾五圓	拾五圓	
			拾貳圓	拾貳圓		

收稅屬	官 等 一	判 任 官	看守長	警部補	看守副長
	五拾圓				
	四拾五圓				
	四拾圓				
	三拾五圓				
	三拾圓				
	貳拾五圓				
	貳拾圓				
	拾五圓				
	拾貳圓				
上拾圓					
下八圓					

○戶長身分取扱及俸給支給方内務省令第十九号十月二十一號  
戶長身分取扱方ハ勅令第三十六號判任官官等三等以下ニ准シ其俸給ハ道廳長官府縣知事適宜之ヲ定ムルニ依ル

○尋常師範學校職員俸額 文部省訓令第八號  
尋常師範學校職員ノ俸額ハ左表ニ據ルニ依ル

地方官官等俸給令



學校長年俸 千貳百圓以下六百圓以上  
 學校長補月俸 五拾圓以下四拾圓以上  
 教頭年俸 千圓以下五百圓以上  
 教諭月俸 七拾五圓以下三拾圓以上  
 助教諭月俸 三拾圓以下拾五圓以上  
 幹事月俸 五拾圓以下三拾圓以上  
 舍監月俸 三拾圓以下拾五圓以上  
 訓導月俸 三拾圓以下拾圓以上  
 書記月俸 貳拾圓以下拾圓以上

○公立學校長以下判任ヲ以テ待遇ス明治十九年十二月三十一日  
 公立學校職員ノ名稱ハ尋常中學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ  
 於テハ學校長教諭助教諭書記トシ小學校及等位ノ之ニ準スヘキ  
 學校ニ於テハ學校長訓導トシ總テ判任ヲ以テ待遇スヘシ

典獄書記看守長官等俸給  
 明治十九年勅令第五十五號  
 以テ更定シ看守ノ官等  
 俸給ノミ存スルヲ以テ  
 簡署シテ之ヲ載ス

○看守官等俸給明治十四年三月十五號達節錄  
 府縣官中典獄書記看守長看守ヲ置キ官等俸給左ノ通相定候條此旨相

達候事

警部巡査ノ官等俸給ハ  
 明治十九年勅令第五十五號  
 以テ更定シ巡査ノ官等俸  
 給ノミ存スルヲ以テ簡署  
 シテ之ヲ載ス

○巡査官等俸給明治十四年十二月百拾壹號達  
 警部巡査ノ等級ヲ廢シ俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

等	外
看	守
拾	圓
以	下

等	外
巡	査
月	給

看守官等俸給 巡査官等俸給



拾圓九圓八圓七圓六圓

五百六十六

巡查奉職滿九年以上十二年以下八月給拾貳圓滿十二年  
以上八月給拾五圓ヲ給スルヲ得(十九年二月第十號)以テ本項退加

○神宮官等俸給明治十九年十一月

沿革略記 明治四年五月官社以下定額及神宮職員規則ヲ以テ神  
宮祭主大宮司以下官位ヲ定ム○五年二月第五十八號  
ヲ以テ神宮祭主大宮司以下官等月俸ヲ更定ス○同年四月第  
百四十號ヲ以テ神宮ヲ教部省ニ屬セシム○十年一月第四號  
布告ヲ以テ教部省ヲ廢シ其事務ヲ內務省ニ屬ス○同年十二  
月第九十一號達ヲ以テ神宮以下神官ヲ廢シ更ニ祭主宮司以  
下官等月俸ヲ定ム○十四年十月第八十七號達ヲ以テ神宮ニ  
等外出仕ヲ置キ俸給ハ內務卿適宜ニ定メシム○十五年一月  
第三號達ヲ以テ神宮職員ニ權宮司ヲ置キ官等月俸ヲ定ム○  
同年九月第五十五號達ヲ以テ神宮祭主以下官等月俸ヲ改正  
ス○十九年十一月勅令第七十一號ヲ以テ神宮祭主以下官等  
月俸ヲ定ム

朕茲ニ神宮職員官等改正ノ件ヲ裁可ス

神宮職員官等表

月	俸	勅任		奏任		判任	
		祭主	宮司	權宮司	禰宜	權禰宜	主典
	八拾圓	三拾圓	貳拾五圓	拾五圓	拾貳圓	八圓	七圓

○內國旅費規則明治十九年六月

閣令第十四號

沿革略記

明治元年十二月遠國御用ノ者支度料手當規則ヲ定ム  
○二年五月諸官員免職ノ輩ハ旅費ヲ賜フ○同年八月  
二官六省其他諸官員及非役華族等東京ニ家族引寄手當ヲ賜  
フ○同年八月遠國御用ノ者支度料等ノ規則ヲ改正ス○四年  
五月遠國御用ノ者支度料等ノ規則ヲ改メ旅費支度料并滞在  
中宿代月手當等ヲ定ム○五年二月番外ヲ以テ旅費支度料等



ノ規則ヲ改正シ旅費定則ヲ定メ日當乘率表ヲ以テ支給ス  
 同年六月第八拾三號ヲ以テ新橋ヨリ横濱迄汽車往復旅費  
 假規則ヲ定ム  
 ○同年十月第三百九號ヲ以テ旅費定則ヲ改正  
 ス  
 ○六年二月第七十二號ヲ以テ官撰留學生歸郷ノ節旅費同  
 年四月第四百二十四號ヲ以テ其發朝ノ節内地旅費ヲ定ム  
 ○七  
 年四月第四十五號達ヲ以テ官撰留學生發朝并ニ歸郷ノ節ノ  
 旅費ヲ廢シ旅費定則附錄ヲ定ム  
 ○八年二月第二十號達ヲ以  
 テ御用掛御雇月俸六圓以下ノ者ハ旅費表ノ十等ヲ賜フ  
 ○同  
 年八月第三百三拾九號達ヲ以テ旅費定則中外國ノ部ヲ增補ス  
 ○九年六月第六十四號達ヲ以テ旅費定則ヲ改正ス  
 ○十九年  
 六月閣令第十四號ヲ以テ旅費定則中内國ノ部ヲ廢シ更ニ内  
 國旅費規則ヲ定ム

内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治九年太政官第五拾四號達  
 旅費定則中内國ノ部ハ廢止ス

内國旅費規則

第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ旅行中一  
 切ノ費用ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第二條 内國旅費ハ各官等ニ依リ分テ六等トシ別表ノ定ムル所ニ從

ヒ順路ノ路程ニ依リ汽車賃汽船賃車馬賃及日當ヲ支給ス但車馬賃  
 及日當ハ管内外ニ區別シ之ヲ支給ス

第三條 汽車賃ハ汽車旅行汽船賃ハ汽沿旅行車馬賃ハ陸路旅行日  
 當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ツル爲メ之ヲ支給ス

第四條 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入傭入タル舟車馬等ニテ旅  
 行シ若クハ旅行ノ性質ニ依リ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタル  
 トキハ本令ノ汽車賃汽船賃及車馬賃ヲ支給セス

第五條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ里數日當ハ日數ニ  
 應シ之ヲ支給スヘシ

外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セス

第六條 赴任又ハ管外旅行ノ爲メ其管内ヲ通過スルトキハ其路程ハ  
 管外ニ準シ又管内巡回ノ際其便宜ニ依リ管外ヲ通過スルトキハ其  
 路程ハ管内ニ準スヘシ

第七條 日當ハ陸路六里未滿汽車十哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅



行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ宿泊ノ數ニ應シテ日當ヲ支給スヘシ

第八條 汽車賃汽船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給スヘシ但其一位未滿ノ端數ハ計算セサルモノトス

第九條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ各年度毎ニ之ヲ區別シ旅費ヲ計算スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度ニ係ハラス汽車汽船ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ之ヲ區別シテ計算スヘシ

第十條 檢田測量及土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃ヲ給セス日當額ニ二割ヲ増給スヘシ

第十一條 赴任旅費ハ舊任地ヨリ新任地ニ至ルマテ本官相當ノ車馬賃汽車賃若クハ汽船賃ノ二倍ヲ支給スヘシ

第十二條 廢官若クハ退官ノ際事務引繼殘務取調其他公務ノ爲メ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十三條 新ニ任用スル爲メ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第十四條 旅行中歸省其他私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給スヘシ

第十五條 旅行中廢官死亡又ハ諭旨退官シタルモノハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給スヘシ

第十六條 前二條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スル爲メ其日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但距離接近シテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トシ其日數ヲ計算スヘシ

第十七條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シ特ニ其旅費額ヲ定メ月額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十八條 各省大臣ハ大藏大臣ト協議シ定額ノ旅費ヲ減少スルコト



ヲ得

第十九條 府知事〔縣令〕ハ三等旅費郡區長ハ五等旅費ヲ支給スヘシ

第二十條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ムヘシ（二十年閣令第六號ヲ以テ武官ノ下ヲ文官ノ二字ヲ加フ）

第二十一條 神官及雇員其他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

別表

等	級	旅費額	
		汽車	賃汽船
一等親任	官	一哩毎ニ一海里毎ニ一里毎ニ一里毎ニ一日毎ニ	賃管外車馬賃管内車馬賃管外日當管内日當
二等勅任	官	金拾五錢	金拾五錢
三等奏任	官	金拾貳錢	金拾貳錢
四等奏任	官	金九錢	金九錢
六等判任	五等以下	金六錢	金六錢

五等判任	四等以上	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢
六等判任	五等以下	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢

附則（十九年閣令第三十）  
（四號ヲ以テ追加）

第一條 北海道廳、沖繩縣、東京府小笠原島廳、長崎縣對馬島廳、鹿兒島縣大島島廳所轄地及東京府管轄伊豆七島内ハ管内巡回ト雖モ管外旅行ニ準シ旅費ヲ支給スルコトヲ得

第二條 北海道廳、沖繩縣管轄内ハ車馬賃ニ限り管外額ノ五割以内ヲ増給スルコトヲ得

但北海道廳管轄内ハ毎年十一月ヨリ翌年三月マテ五箇月間車馬賃ニ限り管外額ノ二倍以内ヲ増給スルコトヲ得

第三條 各省大臣ハ前二條ニ據リ旅費額ヲ定メタルトキハ大藏大臣ニ通知スヘシ

○警察官吏其他内國旅費概則（十九年六月十一號）